



AJET・CLAIR・文部科学省・外務省・総務省 意見交換会
2009年6月1日～2日

AJET 報告 — 日本語版

| | | |
|--------------------------|--------------|-----------|
| 小学校の外国語活動 | | 1 |
| 翻訳・通訳担当 | ジョセフ・シャット | |
| 副会長 | ジェニファー・シ・パーク | |
| 第6ブロック代表 | ブレンダ・ミキニー | |
| 第3ブロック代表 | トンヤ・ネフ | |
| 多数学校のJET | | 8 |
| 第9ブロック代表 | キャロライン・イデアス | |
| 第4ブロック代表 | ルサー・フラグスタッド | |
| 会計 | ケイト・アリソン | |
| ウェブマスター | マーティン・ナッシュ | |
| 一般的活動レポート | | 18 |
| 第1ブロック代表 | アン・スラッター | |
| 第5ブロック代表 | チェルシー・スライク | |
| 第8ブロック代表 | ダニエル・パターソン | |
| 会長 | セラ・リネカー | |
| セクシャル・ハラスメント調査報告書 | | 29 |
| 第7ブロック代表 | アレイナ・ライリー | |
| 第11ブロック代表 | エミリー・コリンズ | |
| PSG コーディネーター | ウィリアム・マクドナルド | |
| 翻訳・通訳担当 | ジョナサン・メルツ | |
| 国際交流員報告書 | | 44 |
| CIR 代表 | ブライアン・オルソン | |
| 会長 | セラ・リネカー | |

小学校の外国語活動

翻訳・通訳担当 ジョセフ・シャット
副会長 ジェニファー・シ・パーク
第6ブロック代表 ブレンダ・ミキニー
第3ブロック代表 トンヤ・ネフ

はじめに

平成 23 年から日本全国の小学校では外国語活動が必須化されます。既に多くの小学校では外国語指導助手 (ALT) がチーム・ティーチング活動をしており、またこの新カリキュラムの導入に従って、活動を行う人が増えると期待されています。この報告書は、新しい授業と教材「英語ノート」がチーム・ティーチング活動にどのような影響を与えたのかを検討します。

目標

1. JET プログラム参加者の会 (AJET) が行った新カリキュラムと教材「英語ノート」に関する調査の結果を検討する。
2. 新カリキュラムが導入されて以降のチーム・ティーチング活動における変化を検討する。例えば、ALT がどの程度、授業計画を任されているのかを検討するなど。

方法

全国 AJET は拠点校として指定された 614 校で現在働いている ALT を調査して、43 人から回答を頂きました。この調査は複数選択の質問と意見を自由に述べる質問を含んでいます。この調査で得た ALT の意見をいくつかを報告いたします。

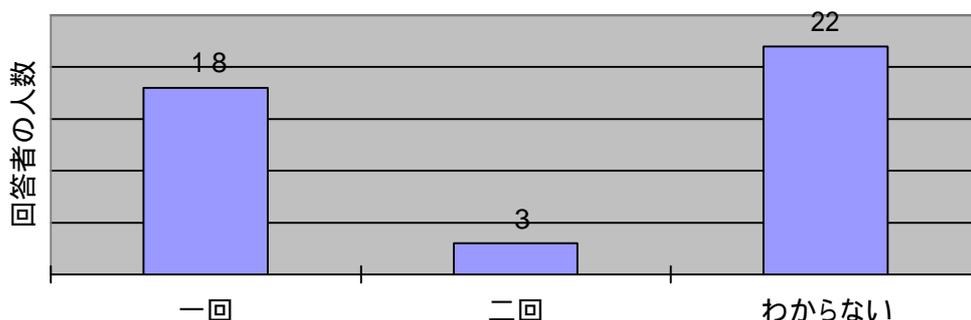
調査の結果

外国語活動の必須化については好意的な反応を得ました。ALT による授業の増加は、生徒のコミュニケーション能力の育成に大きな影響を与えています。「担当教員がいつも前向きで、生徒が次のレッスンをとても楽しみにしていると言ってくれる」、また、「打ち合わせの時間が増え、以前に比べて授業に関する意見交換が活発になった」という回答がありました。

しかし、ALT のほとんどがこの新カリキュラムの内容を詳しくは理解していないというのが現状です。小学校での外国語活動が必須になり、小学校教員が英語を教えるということは分かっていますが、時間数や授業内容については把握していません。

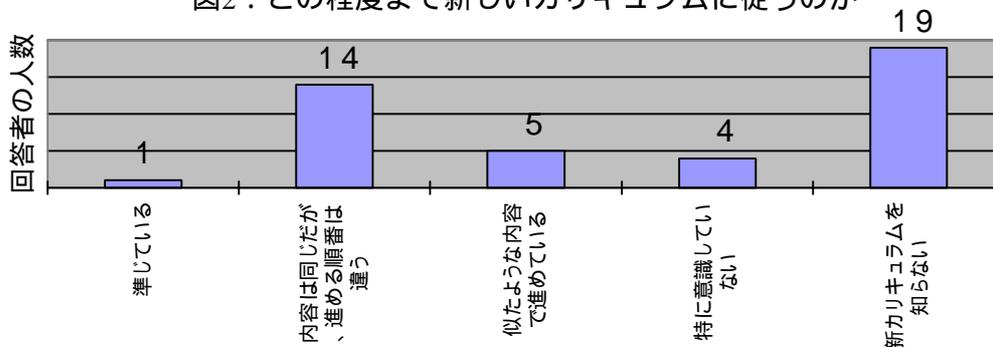
小学校での授業時間数を尋ねたところ、「週に 1 時間」と「わからない」という回答が多く得られました。

図1: 授業は週に何回ありますか



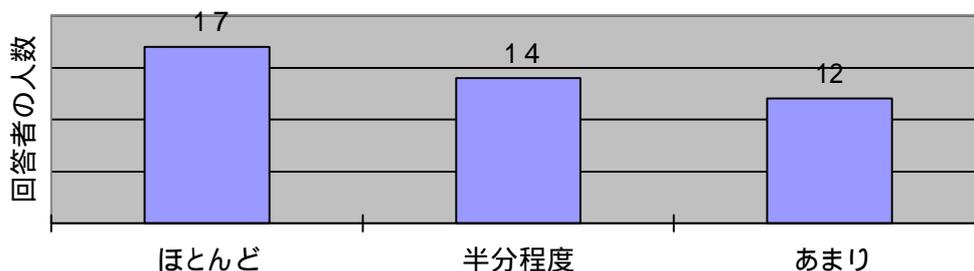
新カリキュラムにどの程度準じて授業を進めているかを尋ねると、ALTの多くは新カリキュラムを理解していませんでした。

図2: どの程度まで新しいカリキュラムに従うのか



新カリキュラムに関して英語の情報がほとんど無いため、拠点校のALTでさえもあまりよく分かっていないようです。しかし一方では、多くのALTが授業計画の作成を任されているようです。

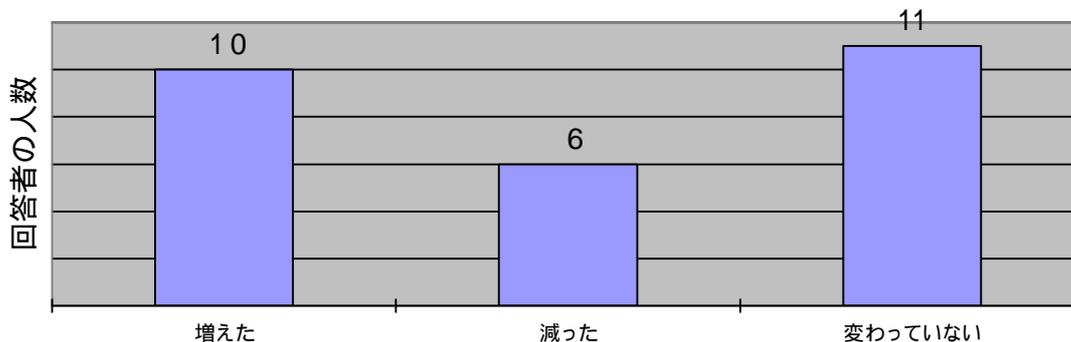
図3: 授業計画をどの程度任されているか



回答者の3分の2が、新カリキュラムの内容が分からないまま授業計画の半分以上を任されているということになります。

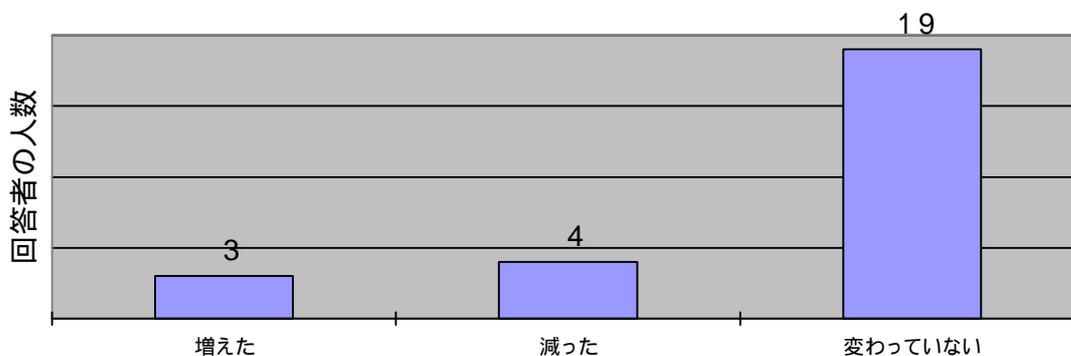
新カリキュラム導入以前から引き続き同じ学校で勤務しているALT 27人に、導入前と導入後での変化を尋ねた結果、あまり変化はないようです。授業時間数においては10人が「増えた」、6人が「減った」、11人が「変わっていない」という回答でした。

図4：授業時間数の変化



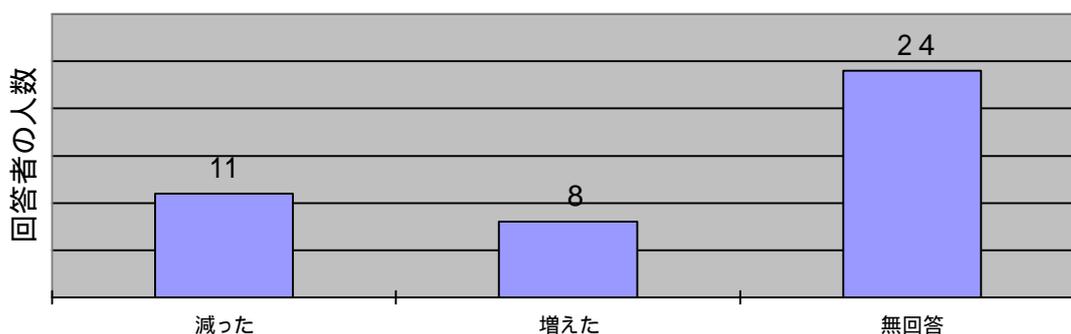
発音練習の取り組みについても、同じような結果が得られました。回答者のほとんどが、導入前と導入後では変化を感じていないようです。

図5：発音練習に取り組む時間の変化



また、授業中の日本語の使用頻度についても、下のグラフが表す通り、特に目立った変化はないようです。

図6：授業中の日本語使用頻度

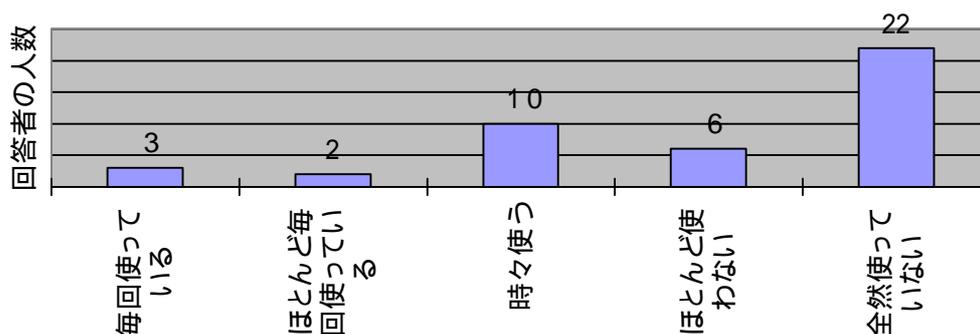


この調査の結果、ほとんどの回答者が、「新カリキュラムを把握していない」もしくは「新カリキュラムに準じて授業をしていない」に当てはまります。このことから、新カリキュラムの導入はまだ、チーム・ティーチング活動に大きな影響を与えていないということが分かりました。

英語ノートについて

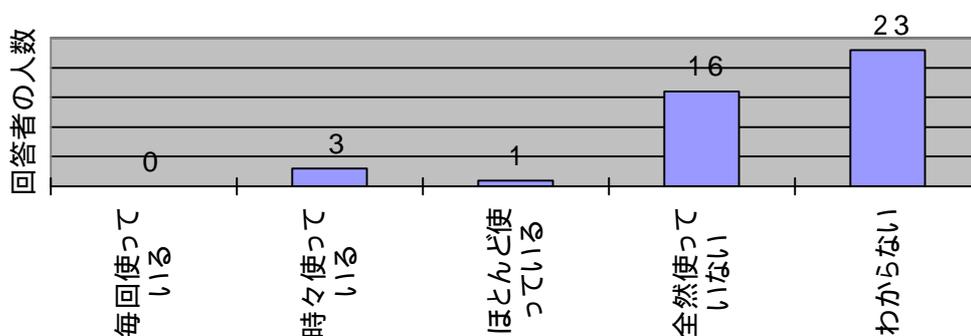
新しい教材「英語ノート」の使用状況について調査しました。まず、英語ノートをどの程度自分の授業で使うのかを尋ねました。回答者43人中、21人が「使っている」、22人が「全く使っていない」という回答でした。

図7：チーム・ティーチングでの英語ノート使用状況



英語ノートは小学校教員用であり指導書が英訳されていないためこれは予想通りの結果でしたが、教員単独での授業においても、英語ノートがほとんど使われていないようです。ALTに教員単独の授業での英語ノート使用について尋ねたところ、「分からない」という回答の次に多かったのが、「英語ノートを全然使っていない」という回答でした。

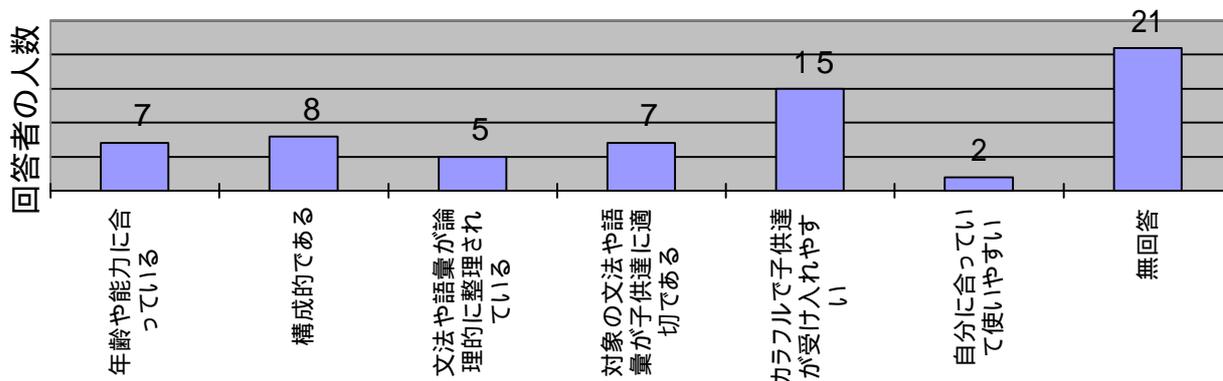
図8：小学校教員単独の授業での英語ノート使用状況



英語ノートの内容について

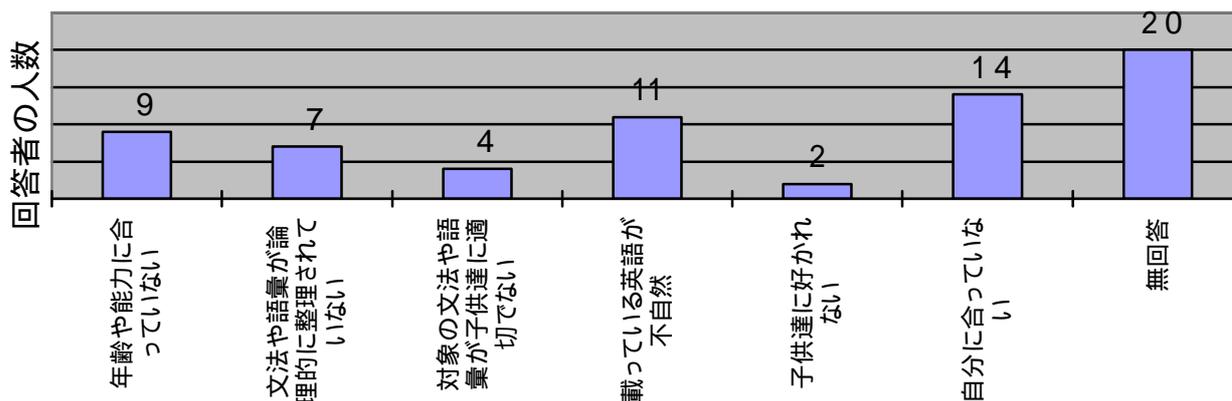
英語ノートは「カラフルで子供が受け入れやすい」ところと、「構成的」な所が魅力のようです。（この質問は複数回答可）

図9：英語ノートの使いやすしいところは



また、英語ノートは「英語が不自然」「自分に合わない」というところが使いにくい点のようです。「英語が不自然」という回答で多く挙がったのが、「let's chant」という表現でした。

図10：英語の使いにくいところは



これに加えて、内容の難易度について、「5,6年生にとっては簡単すぎて飽きてしまうのではないかと懸念しているALTが多く、「子供はもっと高いレベルの文法や語彙に挑戦できる」「もっと語彙を増やしてはどうか」という意見もありました。また、「英語を初めて教える小学校教員は英語ノートに頼ってALTのアイデアを受け入れないのではないかと」という不安もあるようです。

その一方、スケジュール作成やお店屋さんごっこ、将来の夢、どこの国に行きたいかななどの活動は良い評価を得ています。また、生徒の能力に合わせて活動を変えているというALTもいます。

小学校教員とALTが使える共通教材であることと、同じ教材を用いることによって、以前に比べて小学校教員とALTの会話が増え、チーム・ティーチングがスムーズに進むようになったという意見もあった。しかし、英語ノートの指導書が英語に訳されていないため、上手く使いこなせないという意見もあったので、もし、英訳された指導書があれば、より効果的に英語ノートを活用できると思われる。

結論

調査の結果、拠点校の ALT は小学校での外国語活動が必須化されたことを嬉しく感じているようです。しかし、英語ノートの内容と難易度は適切ではないと感じている ALT もいます。

新カリキュラムについての英語での情報や、指導書が ALT にもあれば、もっと効果的に外国語活動を進められると考えています。そうすれば、初めて英語を教える小学校教員を積極的に助けることができると思います。

文部科学省への質問

1. 英語ノートの改訂は将来的にありますか。
2. 小学校英語活動実践の手引きを改訂する予定はあるのでしょうか。もしあれば、新カリキュラムは反映されるのでしょうか。また、小学校教員に対してチーム・ティーチングの持ち方についての情報提供はあるのでしょうか。
3. 以前、文部科学省は新指導要領導入に伴い ALT の増員を期待されていましたが、小学校教員が単独で授業をするようにカリキュラムが作られています。将来的に、ALT の増員は期待されているのでしょうか。
4. 文部科学省は小学校の外国語活動においての ALT が果たす役割は何だとお考えですか。
5. J E T 参加者が non-JET に比べてメリットを、研修を担当されている文部科学省は何かお考えですか。また、J E T 参加者のやる気を高める方法をありますか。

多数学校のJET

第9ブロック代表 キャロライン・アイデアス
第4ブロック代表 ルサー・フラグスタッド
会計 ケイト・アリソン
ウェブマスター マーティン・ナッシュ

序論

ここ数年間、ALTの役割が変わってきて、以前より多くの学校に行くようになりました。一年に5・10・20校以上で教えるALTが誕生しました。この報告は彼らがどんな働きをするか、そしてどんな困難にあうかを調査することとその結果をいかしてCLAIRとMEXTに我々の考えたことを提案することが目的です。

方法

本報告の情報を2009年4月に実施したインターネット上のアンケートで集めました。41県の272名が答えてくれました。回答者のほぼ半分は1年目のALTです。アンケートは多項選択、自由回答、リスト方式をあわせたものです。アンケート配布方法はEメール・ソーシャルネットワークサイトFacebook・AJET.net・各県支部AJETホームページ・口コミを含みました。

データ

学校訪問

一年間に何校で教えますか？

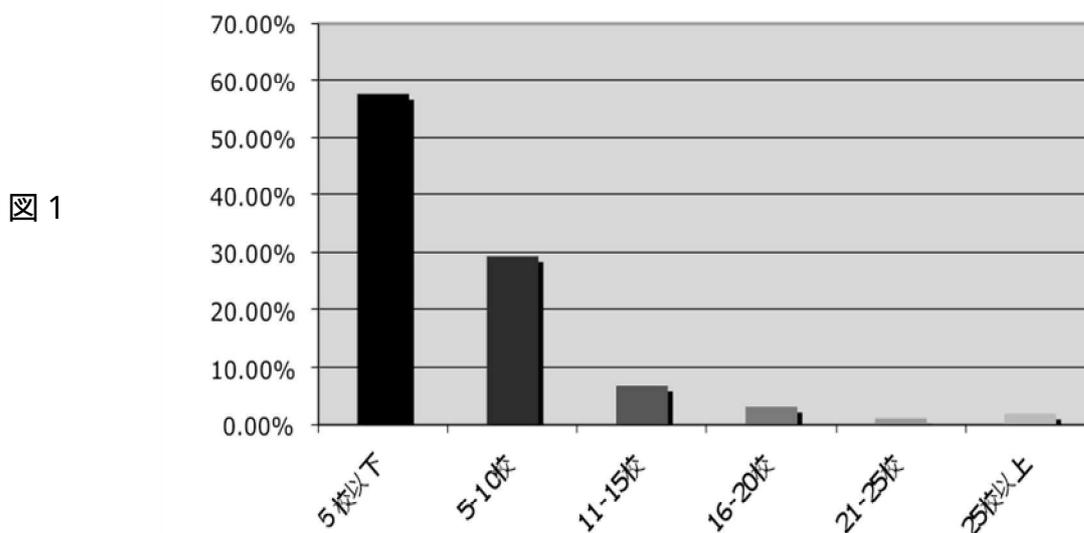


図 1

回答者の57%は5校以下、29%は5-10校、6%は11-15校、3%は16-20校、2%は25校以上訪問します。69%は中学校、68%は小学校で教えます。48%は月に2-4回、16%は月に5-10回各学校を訪問していることが分かりました。

契約時間外の活動

1週間に契約時間以外に何時間学校にいますか？

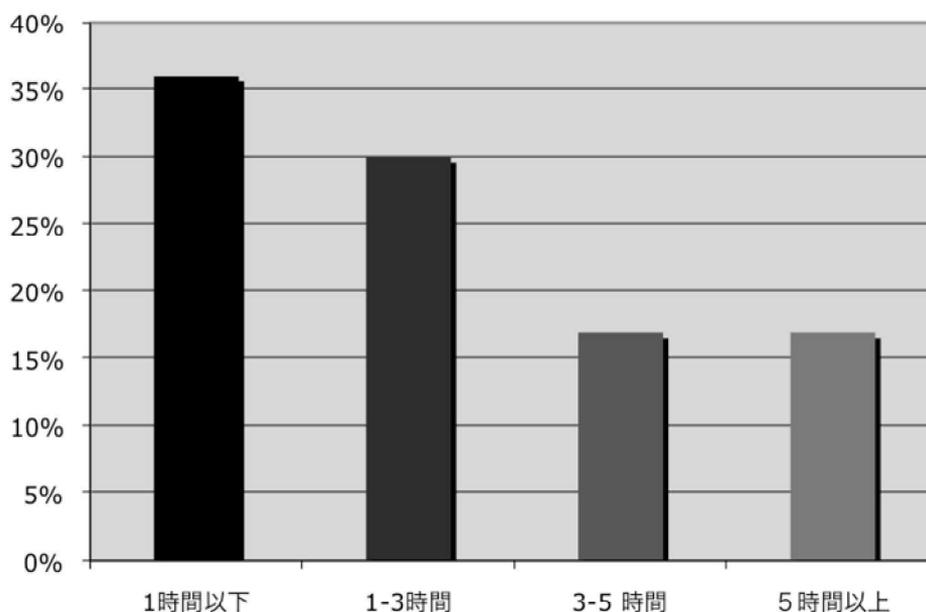


図 2

契約時間外の活動：回答者の36%は1時間以下、30%は1-3時間、17%は3-5時間、17%は5時間以上学校に残ります。理由を以下のディスカッションにて説明します。

契約時間内の活動

授業以外の契約時間をどう過ごすかとの質問に対し、回答者の80%は職員の方々と談笑、65%は児童・生徒と談笑、50%は児童・生徒と一緒に給食、43%は日本語の勉強と授業準備を含む「その他」と答えました。45%は特別計画（英語掲示板、新聞など）、24%は英語以外の授業に参加していることが分かりました。

地域との関わり

地域でのプロジェクトやイベント、活動などを企画するかとの質問に対し、77%は「しない」、残りの23%は「する」と答えました。

学校・地域でのプロジェクトの妨げとなるのは何ですか？

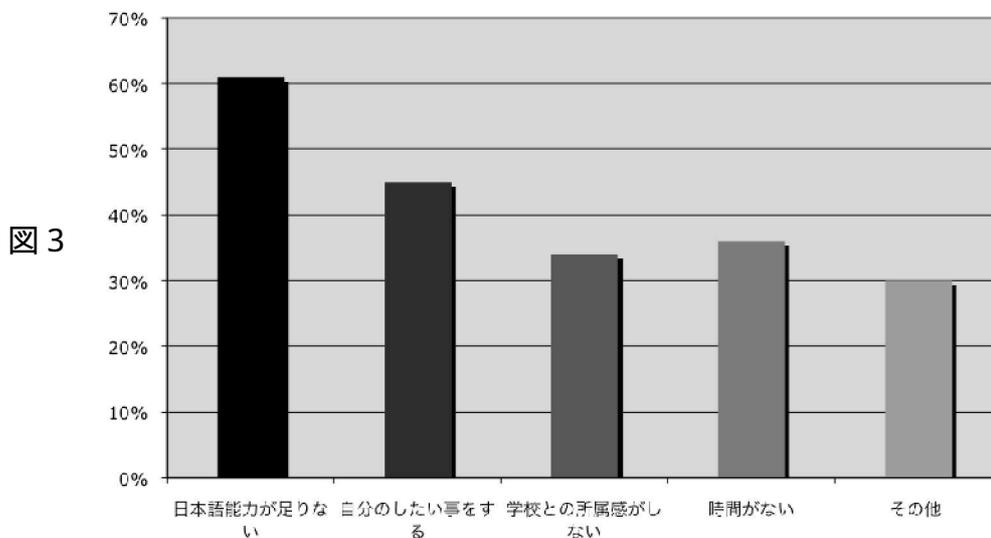


図 3

仕事のやりがい・満足度

50%は多数の学校を訪問する事が「好き」、29%は「まあまあ」、21%は「好きじゃない」と回答しました。81%はたくさんの生徒にあえるのが好き、64%はたくさんの職員にあえるのが好き、58%は色々なレベルで教えるのが好き、49%はレスンプランと教材を再使用出来るのが好き、19%は「その他」と答えました。

多数学校で教える仕事のどこが難しいですか？

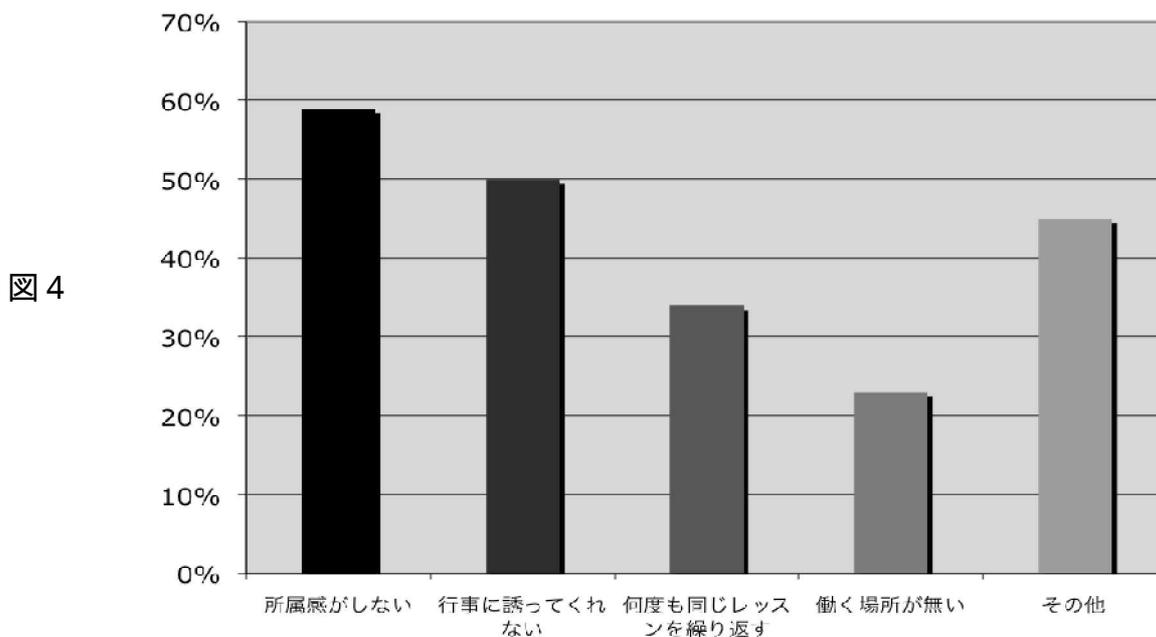


図 4

多数の学校で教える仕事のどこが難しいかとの質問に対して、回答者の59%は学校との所属感がない、50%は学校の行事に誘われない事が多い、34%は同じレッスンを何度も教える、23%は自分の机が無い、45%は「その他」と答えました。困難の話は以下の「ディスカッション」のところで続きます。

分析

このアンケートで少数学校 ALT と多数学校 ALT との答えを比較し分析することが出来ます。分析は幾つかの目立つ点を明らかにしました。訪問する学校が5校以下のALTは契約時間外の学校に残る時間が比較的長いです。

似たような分析では、ベーススクールが有るか無いかで幾つかの興味深い点がありました。

| | 有り | 無し |
|------------------|--------|--------|
| ほとんどの学校行事に参加する | 82.9 % | 39.4 % |
| 多数学校 ALT であるのが好き | 53.0 % | 43.0 % |

ベーススクールのない回答者は色んな困難がありました。

| | 有り | 無し |
|--------------|--------|--------|
| 所属感が無い | 50.3 % | 80.9 % |
| 学校行事に誘われない | 43.6 % | 66.2 % |
| 同じレッスンを何度も使う | 30.1 % | 44.1 % |
| 自分の机か働く場所が無い | 20.2 % | 30.9 % |

ベーススクールのある ALT は比較的満足度が高い、そして所属感がついです。ALT が満足していれば、学校や地域での活躍が多くなるでしょう。

上の図にあった答え意外の回答もありました。なかには、「関係を築くのは難しい」、「コミュニケーションの困難」などがありました。それらの回答をまとめました。

自由問題に 103 の回答がありました。26 通の回答者は「生徒との関係を深めるのはそもそも難しい」と答えました。

20 名の回答者は「ある学校に行く頻度が低すぎる」などと答えました。

“生徒のことを知るのは難しいです。だからどれほど英語を習得しているかを評価しにくいです。ある生徒にめったに会わない。ネイティブとの接触がないから英語が上達しないじゃないかと思います。”

多くの学校で違う仕事内容があるのと何百人（場合により数千人）の生徒に合った教育をすすめるのが難しいとの答えもありました。

アンケートに「数多くの学校で教える JET になる前に知りたかったことは何ですか」との質問がありました。162名の回答者のあいだで様々な回答がありました。以下のずでまとめました。

| 知りたかったこと | 回答数 |
|--------------------|-----|
| 色んな学校でどういう風に期待されるか | 29 |
| 時間割とその期待 | 25 |
| 教え方と授業の期待 | 23 |
| 教師と生徒の英語力 | 9 |
| 日本語能力の必要 | 5 |

授業中に困難となる点をまとめました。197の回答がありました。

| 困難となること | 回答数 |
|-------------|-----|
| 人間関係が築きにくい | 67 |
| 英語の授業が少ない | 31 |
| 生徒の英語力を知らない | 17 |
| 学校訪問が少ない | 16 |
| 予定が立てにくい | 14 |

英語指導における最も多かった困難は「人間関係が築きにくい」ことでした。モチベーションを上げるのに、そして国際交流をするのに人間関係が必要不可欠だと考えるALTが多いです。

次の抜粋では、ALTが人間関係の築き方について2つ考えを提案しました。

“よく移動する先生には2つの役に立てる物があると便利でしょう。
1) 生徒の机配置表と 2) 生徒の顔写真と名前が見える物です。使ってみて、これら両方とても役に立っています。”

「英語が話されている授業が少ない」は二番目に多かった回答です。英語を使わないと身に付かないとは言うまでもないですが、英語を話す機会がめったにないです。

プロジェクトとイベント

困難がある一方、色んなプロジェクトやイベントを計画する ALT は少なくありません。59名の回答者は計画したものについて説明してくれました。以下の文はそれらのイベントや授業などについてです。

祝日をテーマにしたパーティーは人気があるそうです。生徒と地域の人々を招待して行います。これは簡単ですが交流が出来て、人との絆を強くするチャンスです。外国の人々に会い、お互いの文化を知り、かなり楽しめます。

24名の回答者は多数のイベントに携わっているようです。JETプログラムの目標を達成するよう、一般仕事以上に活躍している JET もいます。次はその1名のコメントです。

“私の学校はアメリカにある日本語クラブのメンバー達に手紙を書きました。毎月、英語掲示板にクイズを貼って、答えてくれた生徒に賞品を贈ります。そして、英語のホリデー・パーティーを催します。”

同じ県の JET 達と一緒にイベントを計画する回答者のコメントが以下にあります。

「他の団体と連携して、映画祭を催します。JET参加者と地域の人々が自分が作った映画を大会に出しています。映画祭で得たお金を前もって決めたチャリティーに寄付します。・・・。美術を介して地域の人々との絆を強くするため、美術グループ“SouZou”設立しました。毎年行う予定で今年第二回のアートショーを迎えます。」

学校でのプロジェクトも様々でした。手が無を交換するプロジェクト、英語クラブ、国際デーなどありました。ある参加者の“English Pals”では、高校生が小学校へ行って、先輩が後輩に色々発表しました。

地域でのプロジェクトも色々ありました。大人英会話、クッキング・クラブを始めました。地元のテレビ番組の英語面接、街の観光スポットを英語と日本語のホームページの作成、地元の新聞に記事を投稿、イースター・エッグ・ハントを計画したなど様々イベントを計画しました。

計画するのに、先生なり友達なり本人なり日本語能力のある人のサポートが必要です。「プロジェクトを計画するのに一番障害となったことは何ですか」との質問に対し、「日本語能力が低い」(61.3%)がもっとも多かった回答です。自分の日本語能力を「上級」と評価した回答者の88.1%がプロジェクトを計画した一方、「初級」の場合は18.8%でした。これらの結果により、多くの学校で教える場合、日本語能力のある人を採用するよう勧めます。

AJET の提案

契約団体とのコミュニケーション・関係に関する問題が多かったです。ですから、勧める行為はJET参加者自身が自分であることがほとんどです。AJET、CLAIR、三省の役割はこの役に立つ情報をJET参加者に知らせるべきです。今のGIHにこれに関する情報は少ないです。次の改訂版に載せると役に立つでしょう。AJETはこれからもホームページやネット掲示板でこの情報を広げ続けるつもりです。

問題の具体的な解決案を集めることを目的に、回答者にフォローアップとして、回答者に質問を3つ尋ねました。多数の学校で教えるALTに関して

1. どうやって困難を乗り越えたか？
2. いい計画を立てる人になるのにどうすればいいか？
3. 東京オリエンテーションのワークショップに何を含めるべきか？

コミュニケーション

- 前もって打ち合せ。学校を訪問する前に打ち合わせをすると便利です。可能なら実際に会って行るのが一番望ましい。期待とレスンプランについて話すためです。契約出勤時間にこういった打ち合わせをしてもいいことを学校に知らせるべきです。
- 評価の統一。学校のニーズや期待をよく分かるよう評価が必要です。一案は、各学校で同じ評価書類で評価してもらうことでした。評価した後担当者に渡します。
- 日本語の勉強。残念なことに、英語を話せる人のいない学校もあります。多数の学校で教えるJETは特に勉強する必要があることを、東京オリエンテーションではっきり説明する必要があります。
- **担当者の為の“JET Life”**。全ての契約団体はGIHをもらっているにもかかわらず、ALTを十分に活かす方法を知らない契約団体もある。新規契約者に情報を大量に提供していますが、担当者や契約団体の場合は少ないです。CLAIRとAJETが協力すれば、ALTの評価・活かし方などについてのDVDを作ると役に立つでしょう。
- **AJET・オンライン・コミュニティー**。レスン・アクティビティ・役に立つ情報を交換する場を作れば、前任者から情報をもらえなかった場合、他の現在参加者からももらえる役割を果たします。

プロジェクトを始める

- 英語の存在を作る。各学校に生徒がよく集まる場所に英語掲示板をあげるの
は一案です。見た目がきれいで、簡単な発表・ゲームと ALT の情報を載せる
と好評になるでしょう。他のプロジェクトの呼び水となるかもしれません。
- **関係を築く。**自分のプロジェクトをするとき、他の学校行事の準備に参加す
るのは大切です。こうすれば段取りの決め方を覚えるし先生との関係もよく
なります。関係が良ければ、新しい考え提案しやすくなります。
- 英語教師の手伝い。計画と実行の指導を役に立つよう求めると便利です。
- **広告。**新しいプロジェクトが実現する前、なるべく多くの方法で（会議で知
らせる、ポスターを貼る、等）積極的に人伝えるといいです。

ワークショップ

2009年の東京オリエンテーションで「多数学校訪問のJET」という新しいワー
クショップを開きます。学校のたくさんある新規JETを対象に、十分活躍するよう
様々な情報・アイデアを発表する予定です。内容の全てはALTが現場で試したアイ
デアから集めます。以下はそのワークショップの発表内容です。

- 出席者に、各学校の必要な情報（電話番号、住所、授業数、生徒数、等）を
最初の数週間に記入する書類を渡します。オリエンテーションで紙を渡し、
その後AJET.netで電子ファイルを提供します。
- 日本語を勉強する必要を改めて強調します。
- 新しい考え・変更を受け入れやすい心の必要を強調します。
- 生徒との関係の築き方。英語掲示板、英語ランチなどのプロジェクトを紹介
します。
- レッスンプランの立て方について
 - 役に立つ資料（ホームページ、YouTube、教科書）の取得
 - 生徒のニーズに応えるレッスンの進め方
 - 生徒が参加したくなる授業の行い方
 - 同じレッスンをたくさん使っても飽きない方法
 - 自分のレッスンを集めたバインダーの作り方

まとめ

ALTの学校数は増えつつあります。5校はもちろん、20校以上で教えるALTもいま
す。多数の学校で教えることで様々な困難があります。今まで提供していた資料は、

ALTs Visiting Multiple Schools
多数学校のJET



多数の学校で教える JET 参加者の必要に応えません。これは参加者と契約団体とのあいだで誤解や問題を起こします。しかし、AJET の提案と新しいワークショップは、満足度の上昇、プロジェクト計画サポートシステム、そして全般の有効性に貢献すると言えよう。

—

質問

1. 文部科学所とCLAIRは、数多くの学校で教えるALT向けの資料を作る予定ですか。
2. 決まった引き継ぎ手続きがあれば、この報告にある困難が少なくなるとAJETは考えています。前の意見交換会のフォローアップですが、引き継ぎの統一に関して何をしましたか。昨年11月の意見交換会以降、引き継ぎ者の仕事内容を知らせるのに役立つ資料か情報をPAに渡しましたか。
3. 多数の学校で教えるALTの役に立つために、東京オリエンテーションとその後のワークショップをどのように変えていますか？
4. 担当者と契約団体マニュアルに、多数の学校で教えるALTに関する情報がありますか。
5. 外務省・総務省・文部科学省・CLAIRのほうでは、AJETの新しいワークショップ含めてほしい内容、提案したいことがありますか。

一般活動レポート

第1 ブロック代表 アン・スラッターリー
第5 ブロック代表 チェルシー・スライク
第8 ブロック代表 ダニエル・パターソン
会長 セラ・リネカー

はじめに

当レポートは AJET が行った、または行っている最中のイベントや活動を報告します。企画の進捗状況、改善方法と新方向性を紹介します。AJET の活動を自治体国際化協会(以下 CLAIR)、文部科学省、外務省、総務省、そして JET 参加者に公にする物です。

教育功労賞と国際化賞

今年 2 月に教育功労賞と国際化賞を開催しました。より多くの方を表彰するために条件を調整しました。

教育功労賞の判定基準のどれかを満たした全ての推薦された先生が受賞の通知書を受け、所属する学校の校長にも JET 参加者の推薦を受けたことを通知書で知らせました。教育功労賞の判定基準は以下のとおりでした：

- 生徒に外国語でのコミュニケーションを図るモチベーション的な活動を行うこと
- 国際理解を推進する活動を行うこと
- JET 参加者を活用し、効果的にチーム・ティーチングとより良い授業を行うこと。
- 創造力のあること
- 第二言語教育が他の科目に広げること

国際化賞の判定基準のどれかを満たした全ての推薦された方が JET 参加者の推薦を受けたことを通知書で知らせました。国際化賞の判定基準は以下のとおりでした：

- 国際理解につなぐ活動を行うこと
- JET 参加者の草の根国際化活動の支援を行うこと
- 国際的な活動に興味を持ち、外国人とスムーズに働けること
- 国際関係と国際的な考えを統合し、日常生活に取り組むこと

16 名の英語の先生と他に 12 名の方が通知書を受けました。教育功労賞を受賞された先生は：

- 献身、やる気、鼓舞、敬意のある先生：島根県海士町立海士中学校の古田真一朗先生、石川県立金沢錦丘高等学校の柳橋修先生、熊本県あさぎり町立岡原中学校の森下千和美先生、青森県東北東中学校の相馬葉子先生、福島県喜多方市立第一中学校の荒川智子先生、青森県立大湊高等学校の葛西弥生先生

- 常に ALT と協同に授業計画を行い、上手にチーム・ティーチングを行う先生：山形県中津川小中学校の長谷部明子先生、岐阜県岐阜各務野高校の村井純司先生、熊本県多良木町立多良木中学校の栗田和幸先生
- 創造力のある授業計画を行う先生：奈良県立法隆寺国際高等学校の松本真紀先生、奈良県河合町立河合第一中学校の川上光代先生
- 授業で実用英語を使う先生：長崎県立大村工業高等学校の大野文子先生
- 居心地良い学習環境を作る先生：岡山県井倉中学校の小川哲三先生
- 熱心に生徒と交流する先生：奈良県郡山高等学校の山倉晃二先生、秋田県横手南中学校の高橋亮先生
- 効果的にテキストを活用する先生：鹿児島県笠沙中学校の宇都曜子先生

国際化賞を受賞された方は：

- 国際理解と通して、平和を促進する方：山口県の赤松あつこ様
- 多文化共生と国際理解を促進する方：岐阜県の加木屋様、島根県のタクワ様、広島県の唐崎徳子様、熊本県のオキ様、福井県の澤田国夫様、山形県の茂木栄子様、福島県の山口佳代子様
- 敬意と思いやりのある、国際情勢と文化的意識に興味を持つ方：福岡県の藤田智子様
- 国際交流イベントの計画に努める方：大阪府の藤原和枝様、和歌山県の松山武彦様

教育功労賞と国際化賞は有意義のある活動で、これからも継続できるように CLAIR と 3 省の援助をお願いしたいです。

帰国前研修の求職・教育フェア

帰国前研修会にて求職・教育フェアを開催しました。大学、派遣会社等の企業パートナーの 29 団体が参加しました。企業パートナーの数とフェアのレイアウトについては満足しています。

CLAIR からのフィードバックによると 372 名の参加者の 74% 以上が役に立ったと判断しました。

「色々な好機や役に立つ情報を得ました」（参加者）

残念ながら、多くに企業が終了時間よりも早く片付け、参加者からの批判を受けました。これからは終了時間を厳守にし、休憩時間も設けます。これからは CLAIR と協力し、参加者がフェアで充実した時間を過ごせるようにスケジュールを調整したいと思います。

帰国前研修を機会に、前日の休日を活用し、役員は自分で交通費を出し、川崎市で定例会を開催しました。活動報告、情報交換、これからの活動やイベントの計画を立つ機会になりました。

全国 AJET 役員会選挙

2009年4月1日に2009～2010年全国AJET役員を以下の通り発表しました。

| | |
|--------------|------------------|
| 会長 | 群馬県のジェニファー・シ・パーク |
| 副会長 | 兵庫県のジョセフ・シャット |
| 会計 | 奈良県のマーティン・ナッシュ |
| 第1ブロック代表 | 青森県のアリサ・トビン |
| 第2ブロック代表 | 宮城県のケイレブ・ウリキ |
| 第3ブロック代表 | 群馬県のアンドリュー・ヘフアナン |
| 第4ブロック代表 | 静岡県のヴィッキー・マカン |
| 第5ブロック代表 | 愛知県のイアン・マシューズ |
| 第6ブロック代表 | 兵庫県のブランドン・クレーマー |
| 第7ブロック代表 | 奈良県のキャサリン・コバックス |
| 第8ブロック代表 | 香川県のダニエル・パターソン |
| 第9ブロック代表 | 島根県のキャロライン・イディオス |
| 第10ブロック代表 | 佐賀県のジェシィ・ウェルティ |
| 第11ブロック代表 | 熊本県のスザン・リー |
| SEA 代表 | 長崎県のクリスティン・ウェグナー |
| CIR 代表 | 三重県のバネッサ・アベル |
| 翻訳・通訳担当 | 千葉県のアダム・チャイ |
| PSG コーディネーター | 鹿児島県のエミリ・コリンズ |
| ウェブマスター | 兵庫県のゴラン・セルトコヴィッチ |

3月の上旬に選挙を行い、33名のJET参加者を出馬しました。全国で615名のJET参加者が投票したことはAJETの注目度と支持を示します。2008～2009年全国AJET役員の7人が引き続き役員会に務めます。

White Rabbit Press のアンケート報奨

アンケートの回答者を増やすと共に企業パートナープログラムを拡大するためにWhite Rabbit Press と共同でアンケート報奨を提供しました。目的は：

- アンケートの回答者を増やすこと
- 格安勉強資料を紹介し、日本語の勉強を推進すること

アンケートを終えると、White Rabbit Press の人気な漢字フラッシュカード等の15%割引券のコードが表示されました。

残念ながら、アンケートの回答者の数は増えませんでした。今後、アンケートの回答者を増やすためにこのような報奨等を活用したいと考えています。

AJET都道府県別支部のハイライト

様々な活動やイベントを通して草の根国際化を進めている AJET 都道府県別支部の活動ハイライトを紹介します。

第1ブロック

青森県

- 第1回目の「ナマステ慈善美術展」を開催しました。JET 参加者と日本人の作品を展示し、エベレスト・オブ・アップルスのために 240,000 円の募金をしました。6 人の JET 参加者が企画し、3 日間の展示会に多くに市民が訪れました。(JET エフェクト)
- 第5回目のフットサル大会を開催しました。JET 参加者と日本人を含む 100 人以上が参加し、エベレスト・オブ・アップルスのために 100,000 円以上の募金をしました。

北海道

- 北海道支部は例年の雪祭りツアーを 2 月に開催しました。全国から 90 名の JET 参加者が集まり、「英語」ホームステイコンテストのために 540,000 円以上の募金をしました。
- 中学生・高校生の北海道英語チャレンジ大会を開催しました。130 名の応募者の中の 50 名が受賞しました。2 名の最優秀者が英語圏の国で 2 週間のホームステイを体験できます。他の 48 名の受賞者は ALT による 5 日間の英語キャンプに招待されます。生徒の指導と審査そしてキャンプの計画と実行に 60 名の JET 参加者が参加し、北海道支部の最大のイベントです。

第2ブロック

宮城県

- 宮城県支部アートショーを開催し、仙台市で無料のワークショップを行いました。3 日間のイベントに 140 名の JET 参加者が参加し、ほとんどのワークショップに 30~50 名の日本人も参加しました。開幕イベントに 150 名が出席しました。地元のテレビ、ラジオ、新聞等で広告されました。
- 日本での第1回目のセントボルドリックスイベントを開催しました。セントボルドリックスとは世界最大ボランティアによる小児癌研究のための募金です。がんの子供と結束を見せるために剃髪し、募金します。地元の新聞で公表し、JET 参加者と日本人を含む 11 名の参加者が剃髪し、(財)がんの子供を守る会へ 218,000 円を寄付しました。

山形県

- ティーシャツのデザインコンテストを開催しました。「サービス・ネットワーキング・ソーシャルFacebook」を使って、デザインをアップロードし、投票しました。人気投票で選ばれた 2 つのデザインのティーシャツを 175 枚以上作り、JET 参加者も日本人も誇りを持って山形県のティーシャツを着ています。

第3ブロック

長野県

- 劇、バンドの演奏、即席の上演などを含む慈善のタレントショー「Nagashow」を開催しました。30人のJET参加者と30人の日本人が出場しました。

第5ブロック

福井県

- 5月にJTE、JETや他の外国人を含む120名の観客のために20名の福井県支部会員が国際タレントショーを開催しました。演奏・上演部、視覚芸術部、執筆部、料理部などがあり、収益をタイの慈善に寄付しました。
- 地元の孤児院訪問を続けています。72名のJET参加者と7名の日本人が2つの孤児院に訪問し、イベントやゲームや手芸品作りや英会話をしたり、子どもたちと時間を過ごしたりします。(JETエフェクト)

富山県

- 毎年地元の日本人とJET参加者がタレントショーを開催します。全ての収益を地元の慈善(富山市立愛育園)または国内の慈善(セカンド・ハーベスト・ジャパン)または海外の慈善(ハイファー・インターナショナル)に寄付します。

第7ブロック

奈良県

- 3名の高校生を海外留学させるために奨学金プログラムを始めました。2月にアメリカで3週間を過ごす1年生、イギリスで2週間を過ごす2年生、アメリカで1年間を過ごす3年生それぞれに100,000円を寄贈しました。全員は英語の勉強プログラムに参加します。募金のためにハロウィーンパーティー、クイズ、古本市、口ひげコンテスト、Tシャツデザインコンテストを開催しました。

第8ブロック

徳島県

- 徳島県のJET参加者は「チャーリーとチョコレート工場」のミュージカルを製作、監督、そして演奏しました。入場無料で、県内5つの場所で演奏し、地域の日本人を招待しました。

第9ブロック

島根県

- 島根県AJET支部奨学金基金は4名に合計400,000円を寄贈しました。40名以上のJET参加者と40名以上の日本人が寄付しました。大変人気のあるため、中学校3年生も申請出来るように拡大しました。
- 2月に例年の舞踏会を開催し、65人が参加しました。半数以下はJET参加者で、残りは日本人でした。奨学金基金に募金をしました。

第10ブロック

佐賀県

- 地域の孤児院の募金のために例年のクリスマスパーティーの開催の手伝いをしました。

第11ブロック

熊本県

- JET 参加者と JTE が文房具を収集し、貧しいジンバブエの子供に寄付しました。今まで 100~200 キロの文房具を寄付しました。玉名国際交流協会、熊本新聞、朝日新聞も協力しています。(JET エフェクト)

専門部のハイライト

過去の半年の専門部のハイライトを紹介します。

BEE サイクリングツアー

- 花見とごみの収集を目的として、琵琶湖のサイクリングを開催しました。
- 市内美化のため、名古屋でごみの収集イベントを開催しました。最も収集量の多い人、最も面白いごみを見つけた人、最も大きなごみを見つけた人、それぞれが受賞しました。

『ゴー・マッド』ボランティア SIG

- 日本人の学生とタイの養護施設の子どもたちとのペンフレンドプログラムを始めました。
- 海外の慈善のための教育関係募金イベントを 5 回開催しました。JET 参加者に開発途上国の問題の教材を提供しました。
- タイ、インド、カンボジアの孤児院の手伝いや地域開発のボランティアの旅行を計画しました。

PEPY グループ

- ゴールデンウィークにカンボジアへボランティア旅行を開催し、学校での手伝いや学校の建築を行いました。

JET クリスチャン SIG

- 3 月に JET 参加者と日本人のクリスチャンのための長野旅行を企画しました。
- ハビタット・フォー・ヒューマニティの専門部と共にゴールデンウィークにフィリピンへ行って、ボランティアで家を建てる活動しました。

ルーム・トゥ・リード

- ベトナム、スリランカ、ラオスで学校の図書室を作るために 1,200,000 円の募金を目的として、秋田県でハロウィーンパーティー、相撲大会、スキー・スノーボードツアー、学校での募金などのイベントを開催しました。
- ラオスで学校を建てることを目的として、大分県でも慈善イベントを計画しました。
- 今まで JET 参加者は 4,000,000 円以上を募金し、3 校の建築をスポンサーしました。

- JET 参加者は学校でも活動し、古本市を開催したり、ルーム・トゥ・リードの教材を使って貧乏や識字などの地球規模問題を紹介したりしています。(特に3年生の New Horizons テキストの Unit 3 "Our Sister in Nepal")
- JET 同窓会も世界各地のイベントを通して、ルーム・トゥ・リードを支援しています。

JET エフェクト

前回の意見交換会よりいくつかの JET 参加者自発の地域への関わり振興プロジェクトを取り上げています。

- JET 参加者自発の地域クリケットクラブ(仙台)
- 地元の日本人作と外国人作芸術品の展示会(青森県)
- 姫路城の伝説の英語の絵本の作成と姫路城で観光客のための読み聞かせ(兵庫県)
- 文房具を貧しいジンバブエの子供に寄付(熊本県)
- 相撲協会と JET 参加者共同の楽しい相撲イベント(秋田県)
- 英語チャレンジコンテストと英語キャンプ(秋田県)

JET エフェクトの目的は JET 参加者の資料と名案になることです。参考にし、自分のプロジェクトを始めることができるように、過去に取り上げたプロジェクトの記事は AJET のホームページで見ることができます。自分のプロジェクトを始めたい JET 参加者からいくつかのメールを受けています。

特に、2008 年 11 月に取り上げた福井市の児童養護施設のプロジェクトは加速度的に大きくなりました。AJET を通して、北海道支部のウェブマスターの支援を受け、新しいウェブサイトを設け、他の都道府県でもプロジェクトを始めようとしています。このような地域ボランティアプロジェクトをはじめることについて、来日直後オリエンテーションにて紹介します。

AJET オンライン

この 1 年間にはホームページのアップデートに取り組んでいました。古いデータの削除やリンクの確認をしています。その上に、より使いやすくし、より多くの情報を記載するようにしています。もっとたくさんの JET 参加者がホームページを訪ねるために記載している情報を常に最新にアップデートし、使いやすくし、過去の報告書等のダウンロードが簡単に出来るようにしています。

AJET のメールマガジンは役に立つ情報源で、JET 参加者の 8 割以上はメールマガジンを受信しています。メールマガジンに JET 参加者のコミュニティの情報、日本の情報、ALT と CIR 向けの機会等が掲載してあります。常に企業パートナーの役に立つ情報を掲載できるように企業チームが努力しています。JET 参加者やメールマガジンに情報や広告を掲載したい SIG や企業パートナーに肯定的な反応が寄せられています。これからも JET 参加者のために適切な情報を提供できるように努力します。

無料ソーシャル・ネットワーキング・サービス「Facebook」は情報提供にとっても役立っています。現在 425 人以上の JET 参加者は「Facebook」を通して AJET の情報を得ています。

来日直後オリエンテーション(4月期)

AJET の代表として、セラ・リネカー会長が 4 月期の来日直後オリエンテーションに出席しました。歓迎のあいさつし、一日中事務局を設けました。73 名の参加者の半数以上が AJET に入会しました。多くの参加者が「豊タイムシェア」の旅行ネットワークにも入会しました。取りまとめ団体の他の JET 参加者に暖かく歓迎されることを願っています。CLAIR に協力いただいたことに対して感謝しています。

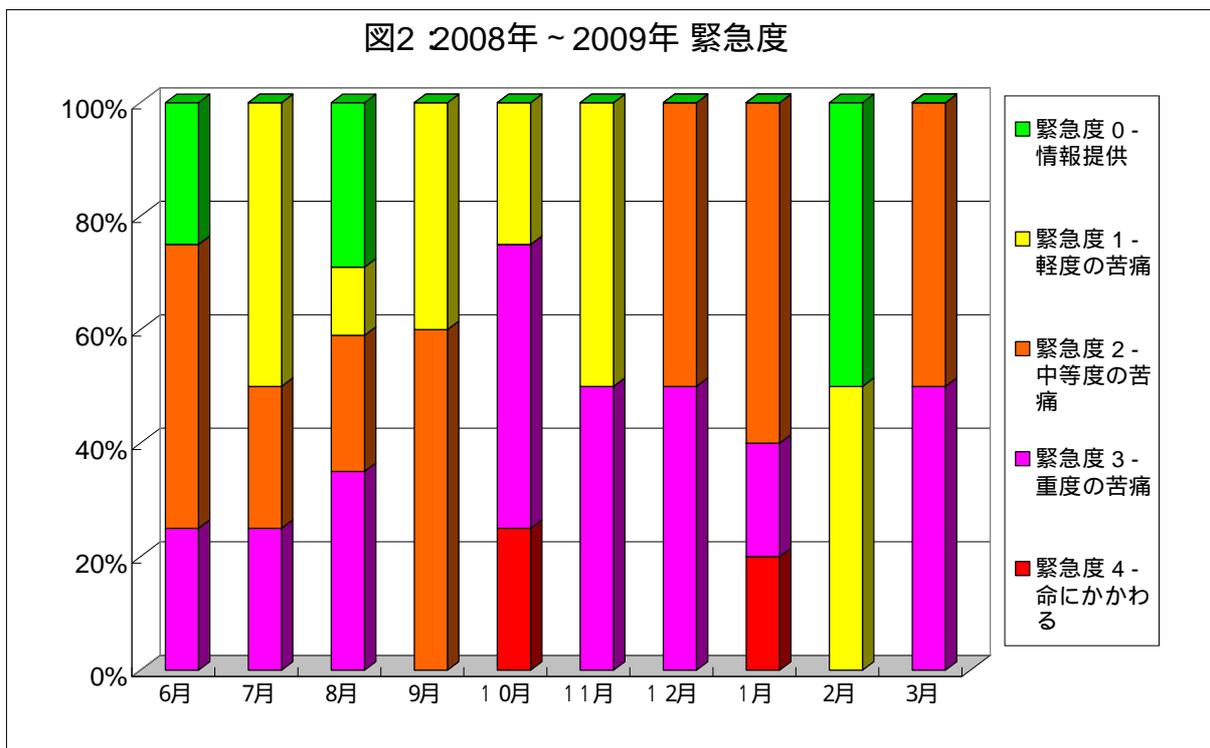
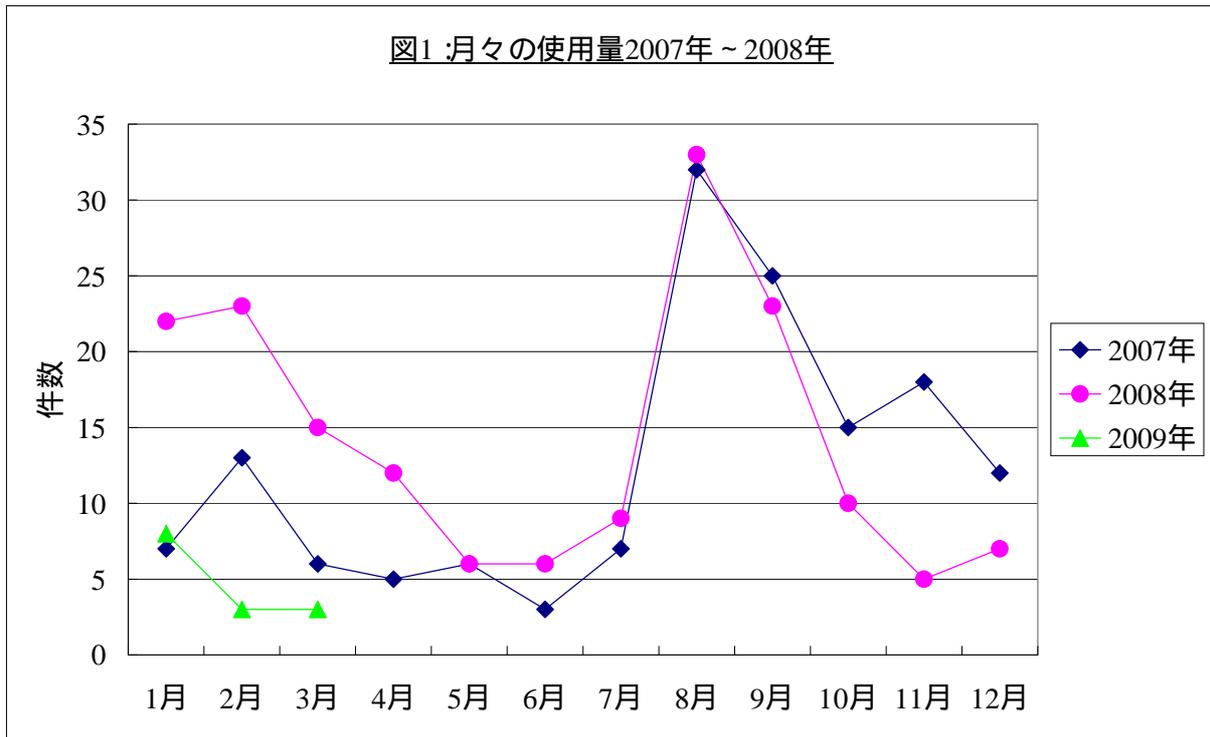
来日直後オリエンテーション(7、8月期)

今年も来日直後オリエンテーションで CLAIR と連携することは楽しみにしています。どの AJET 分科会を発表したいかを知らせるために、去年来日直後オリエンテーション運営協力者(TOA)の申請書を変えました。今年は更に改善し、事前に分科会のテーマを決まり、申請書の書き方を変えました。新規 JET 参加者のためによりよい分科会を開催するために、やる気のある TOA が増えると願っています。よりスムーズな計画にもつながります。去年は事前に TOA に会うことが出来ず、様々な問題につながりましたが、今年は解決ができるように努めます。

AJET ピア・サポート・グループ

PSG ボランティアの募集は 4 月の中旬に終了しました。ボランティアの負担を軽減するために、30 人から 32 人に増やしました。ボランティアコーディネーターも増やし、今年は 2 人を任命します。

2008 年 10 月～2009 年 3 月の半年間に例年に比べ、PSG の使用量が減りました。(図 1 参照)しかし、事件の緊急度 4 度(命にかかわる)電話が 2 件ありました。可能的場合は PA と一緒にフォローしました。両方のケースは PA も承知し PSG の関与については感謝しているそうです。



新規 JET 参加者の来日までに新しいウェブサイトを完成する予定です。現在 Skype を使う掲示板が試行中です。使用できるようになったら、CLAIR、PAs、SGL 等に知らせます。

PSG の援助をいただき、CLAIR に感謝をしています。これからもよろしくお願ひします。

出版物

以前に比べて、プラネット英語とフォクシー・フォニックスの売り上げが上げました。評判が高く、1年間で合計約 1000 冊を売りました。日本人英語指導員にも人気があり、県内の中間研修での販売も行っています。

インターネットでも販売ができるため国際標準図書番号(ISBN)の取得に取り組んでいます。

全国語学教育学会 (JALT)

AJET は 6 月に大宮で開催される JALT の大会「中仙道」に参加します。AJET と JALT の関係を強くなりつつあります。中仙道に参加するのは 2 年目で、一般者に AJET と JET プログラムの活動を広告するいい機会になります。AJET の出版物と小学校の新しいカリキュラムについて 2 つの分科会を発表します。

質問

1. 今年は教育功労賞と国際化賞の評定基準を改定しました。このプロジェクトの継続のためにしてほしいことや提案はありますか。
2. アンケートの回答率を上げたり、情報収集の幅を広げたり、より多くの JET 参加者に情報提供が出来るように努めています。CLAIR と 3 省はより多くの JET 参加者のために AJET が有意義になるための提案はありますか。
3. 前回の意見交換会では CLAIR が出来る JET エフェクトを促進する方法の提案がありました。（例えば、ホームページに載せたり、自治体に伝えたり、JET Journal や CLAIR ニュースに載せたりする等）この提案は進んでいますか。日本人、特に契約団体に JET エフェクトを促進する方法で AJET または CLAIR が出来ることについて他に提案はありますか。チラシや配布資料を使って、契約団体に促進することは可能ですか。
4. 7、8 月期の来日直後オリエンテーションの参加者は何人でしょうか。

セクシャル・ハラスメント調査報告書

第7ブロック代表 アレイナ・ライリー
第11ブロック代表 エミリー・コリンズ
ピア・サポート・グループ・コーディネーターウィリアム・マクドナルド
翻訳・通訳担当 ジョナサン・メルツ

はじめに

当報告書では、JET プログラムの参加者に関する範囲でのセクシャル・ハラスメントを調査し、それに対する啓発・情報提供手段を検討する。

昨年 NAJET に、とある県主催の中間研修会で、教室内の規律問題についてのロールプレイセッションとして始まったのが、セクシャル・ハラスメントに関する議論へと展開して延々と続いた、という連絡が県支部代表から入った。JET 同士や同僚、生徒、全くの他人の手にもよるセクハラ之苦情が多く寄せられたとのことであった。CLAIR が出版する「JET 参加者用ハンドブック」を参照してみると、役に立つ情報はある程度あったが、彼女が求めていた情報の大部分が、日本語版しかない「契約団太陽マニュアル」にあることに気がついた。県内の JET 参加者からの相談に応じる中、AJET のブロック代表に連絡し、セクシャル・ハラスメントへの正しい対応の仕方、セクハラに関する研修会の開催の可能性、セクハラが発生率及び JET 参加者に提供されるセクハラに関する情報が都道府県によって違うのか、文化的認識がいかに関係しているか等について問い合わせた。

目的

当報告書の目的は以下の四つである。

5. セクシャル・ハラスメントが JET 参加者にどんな影響を及ぼしているかを調査すること
6. セクハラに関する日本の法律や既存サポート制度についての JET 参加者の知識度を調査すること
7. JET 参加者のための、セクハラに関する更なる啓発・情報提供の必要性を判断する
8. セクハラ事件が発生した場合、加害者が大人か生徒かなどの状況に応じて明確な相談手順を提供すること

調査方法

当報告書は、42 都道府県に在住する 321 人の JET 参加者から収集したデータに基づいている。回答者の半分近く（45.5%）は1年目の JET 参加者であった。

調査結果・解析

NAJET の調査でセクハラに関するものは今回で 3 回目（付録参照）となるので、今

回は、セクハラに対するJET参加者の知識度と日本におけるセクハラへの対応の仕方という新しい視点から調査した。当調査の質問事項は、セクハラ事件の発生とセクハラに関する研修という二つの方向性で設けた。

セクシャル・ハラスメントに関する研修

回答者の三分の一強（34.1%）は、JET プログラムに参加する前にセクハラに関する専門的な研修を受けたことがあり、その研修の大部分が、セミナーや文書、ビデオ・DVD等を使用して、職場で標準的・強制的に受けたものだ、と回答した。

回答者のわずか2.8%が、本国の出発直前オリエンテーションや県主催のオリエンテーション、職場などで、JET参加者として研修を受けたと回答した。このうち、実際受けた研修に関しては、満足していると全員が回答した。

多くのJET参加者がセクハラに関する専門的な研修を受けていないにも関わらず、学校や家庭で友人と家族からその話を聞いたことがあるので、セクハラ構成要件に対するしっかりとした意見を持っている。しかし、回答者の64.3%が、日本において何がセクハラ構成要件と見なされるかについて十分な情報を得ていないと回答した。

回答者からのコメント：

「アメリカにおいて何がセクハラと見なされるかならわかりますけど、日本の場合はわかりません」

セクハラ被害者のためにある既存サポート制度に関する混乱が、更なる研修や情報提供によって解消できるように思われる。幸いなことに、回答者の大部分（74%）が日本で相談できる相手がいると回答したが、そんな相手のいない26%の回答者からみれば、もっと情報やガイドラインを提供した方が安心できるだろう。

回答者のほとんど（82.8%）はセクハラに関する日本の法律と自分の権利について十分な情報を得ていないと回答したが、この背景にセクハラと性的暴行の違いに関する混乱もみられる。

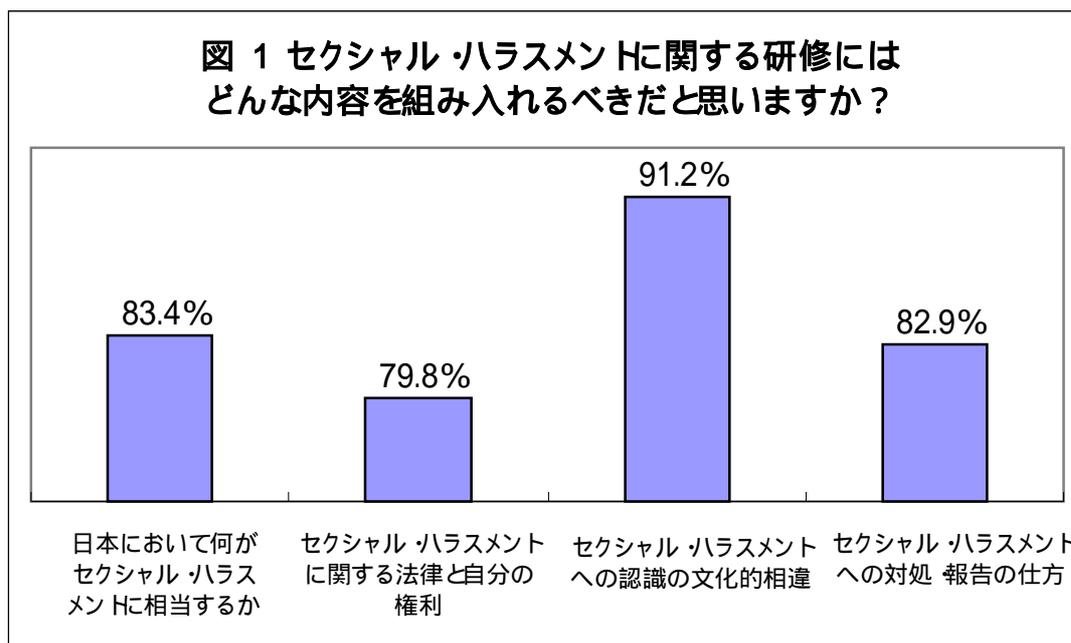
CLAIRの「JET参加者用ハンドブック」にはセクハラに関するセクションがあり（付録参照）、回答者の61.7%はこのセクションを呼んだことがあると回答した。但し、あまりにも前に読んだので内容はもう忘れた、とコメントした回答者も多かった。また、同ハンドブックが毎年度再出版されることを反映して、内容の質に対する認識も回答者が来日した年度によって大きく左右した。

回答者からのコメント：

「ガイドブックは、連絡先を教えたり泣き寝入りしないよう励ましたりして役に立った。セクハラへの対処方法に関する文化的情報もあった。セクハラに関する日本の法律とかセクハラ構成要件についての情報もあればよかった。」

ハンドブックの 21 年度にセクハラに関するエッセーも付加された（付録参照）。大事な第一歩で、積極的な態勢を示すものではあるが、生徒達の言動や非言語的嫌がらせへの対応の仕方、セクハラに対する法律と警察の関係等、JET 参加者が必要としている情報を未だ十分に提供していない。しかも、例のエッセーはガイドブックの巻末（261 ページ）にあって、セクハラに関するページ（169 ページ）では言及されていないので、更なる情報を探している JET 参加者に見逃しやすい。

当調査の最も重要なデータのの一つは、回答者の 64.9% がセクハラに関する研修機会を増やすべきだと回答した統計である。研修内容の選択肢に関する結果は図 1 で表示されている。

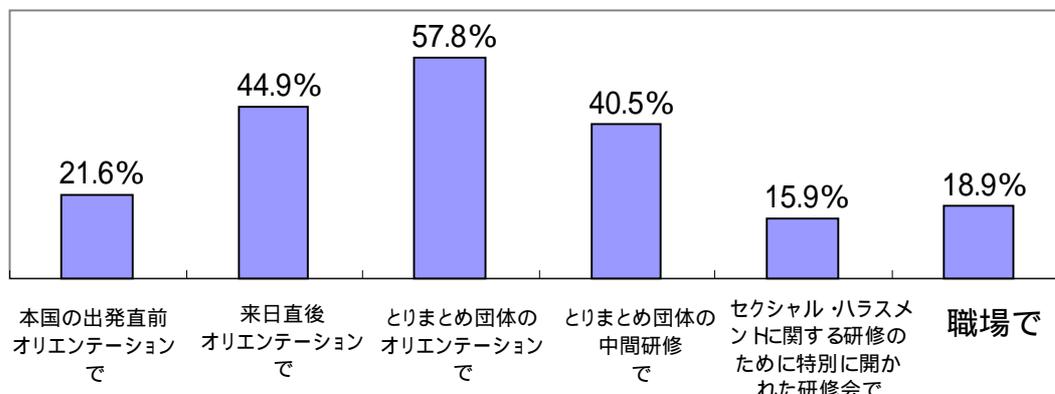


研修内容の提案もいくつか挙げられた。

- セクハラを受けて感じるストレスへの対応方法
- セクハラへの文化的相違を配慮した対応方法
- 特に、生徒によるセクハラへの対応方法
- 第三者としてセクハラを目撃した時の取るべき措置
- 被害者の職場復帰が不可能な場合にそなえて、再就職に対する情報
- セクハラに関する、便利な日本語表現
- 担当者・学校関係者のための研修

研修の効果は、その時期によるとも思われる。研修の理想的な時期に関する回答者の結果は図 2 で表示されている。

図 2 どんな時期にセクシャル・ハラスメントに関する研修を受けた方がもっとも役に立つと思いますか？



最も肯定的な回答が多かったのは「とりまとめ団体のオリエンテーションで」であった。この時期では新規 JET 参加者達が新しい生活環境に落ち着いていて、研修の内容が自分にどう関係しているかより理解できる。小さいグループに分かれて、自由に質問したり意見を交換したりすることもできる。サポート制度が各とりまとめ団体によって違うと予想されるので、こういった内容をとりまとめ団体レベルで扱うことは適切である。

来日直後オリエンテーションは二番目に肯定的な回答が多かったが、これは理想的な時期ではないという回答もあった。来日直後の新規 JET は時差ぼけになっていて慣れない環境に圧倒されていることもあり、この時期に覚えなければならない情報がすでに多くあるからである。

実際目撃・体験したセクシャル・ハラスメント

当調査では、セクシャル・ハラスメントを「職場などで、相手の意志に反して不快や不安な状態に追い込む性的な言葉や行為」と定義づけた。同一行為が、セクハラと見なされるかどうかは個人の認識によることもあるので、セクハラの場合、その行為が自分の意志の反していることに重点を置いた。

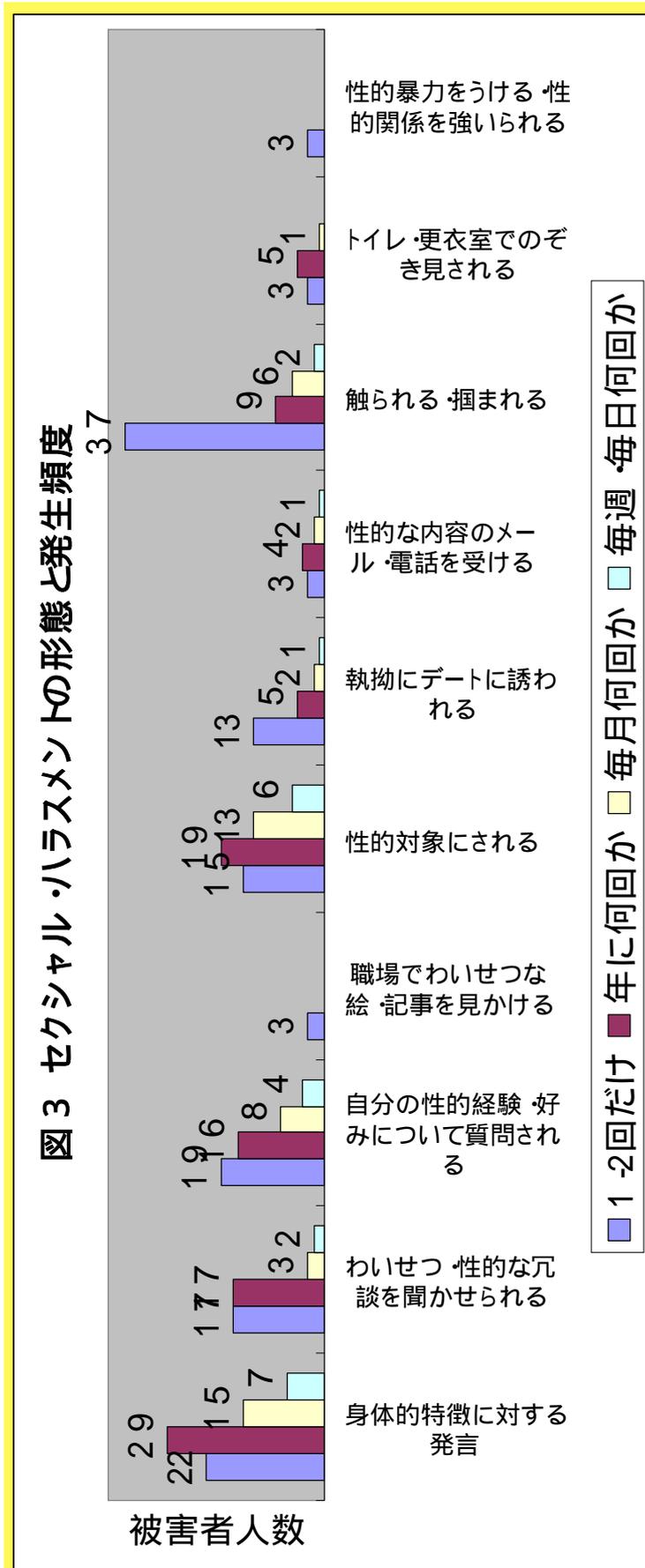
回答者の 30% は日本でセクハラを受けたことがあると回答した。そのうち、大部分 (76.1%) が女性で、セクハラについて研修を受けたことがない。セクハラに関する日本の法律がわからないと 92% が回答し、セクハラへの対応に関する研修がほしいと 83% が回答した。回答者達が受けたセクハラの内容は図 3 で表示されている。

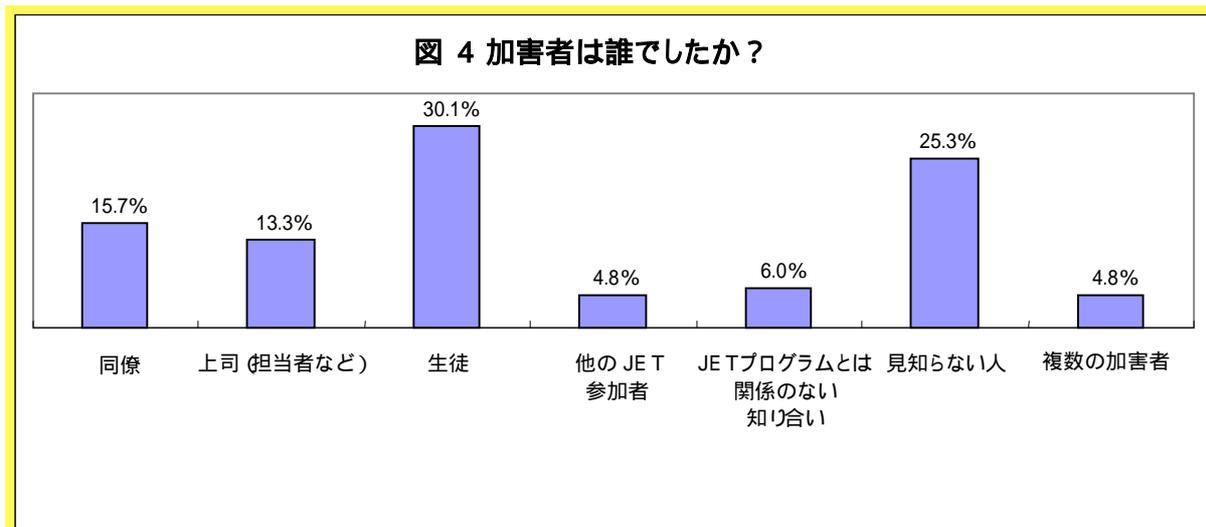
最も頻繁に発するハラスメントの形態は言語によるものであるが、場合によっては文化的相違に原因があると説明できるように思われる。本人がセクハラを受けたというふうに認識しながらも、実際受けた行為が日本ではセクハラと見なされるかどうかかわからず困惑することが多々ある。

Sexual Harassment Report
セクシャル・ハラスメント調査報告書



各回答者が受けたことのある最も深刻なセクハラ事件の加害者に関する結果は図 4 で表示されている。加害者の大部分（85.5%）が男性であり、大きく分けて生徒（30.1%）、職場関係者（29%）、見知らない人（25.3%）の三つの種類に分類できる。





加害者のうち最も数が多い種類は生徒であるということは、JET 参加者のほとんどが教育の分野で働いていることに直接関係があるであろう。生徒によるハラスメントに対する感情は複雑であり、「おもしろい、子供だから仕方がない」と思う参加者もいれば屈辱的・加虐的に認識する参加者もいる。

回答者からのコメント：

「生徒達に私の個人空間を認めてほしい。外国人だからといって、気安く触ったりセックスや私のバストサイズについて聞いたりしてもいい訳じゃない。」

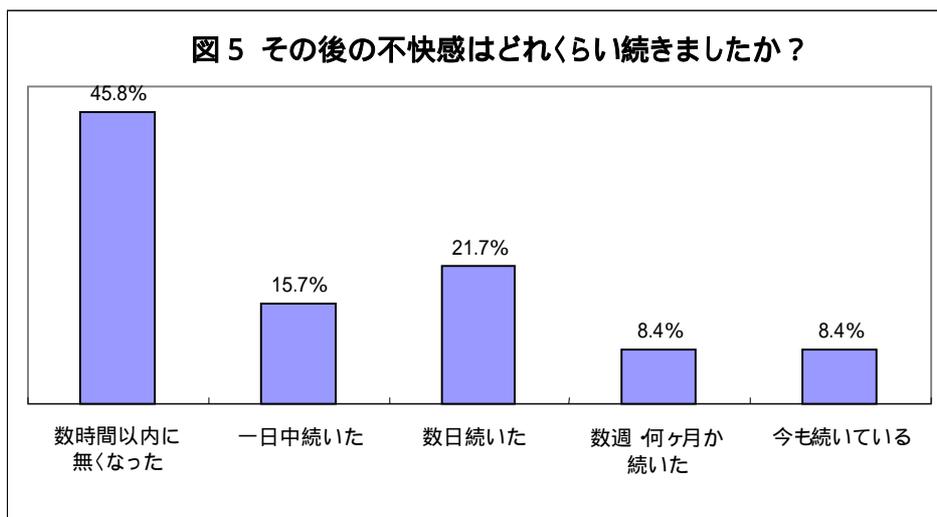
次に加害者の数の多い種類は職場関係者で、この数に同僚(15.7%)も上司(13.3%)も含まれている。この種類の人によるセクハラは、JET 参加者の職場環境や人間関係に影響がある上に、半分近くの場合権力の立場にある者によるものなので、最も深刻である。正しい対応方法に関する情報の少ない状況でもある。この場合、どう対応すればよいのかわからない上に、何か言ったら職場関係者から疎外されるかもしれないという心配もある。

回答者からのコメント：

「言葉だけだったら黙って我慢するだけだ。触られたりしない限り、その国の文化だけなのかどうかかわからないから。他の女性先生に相談してみても、笑って「我慢して」と言われるだけだ。」

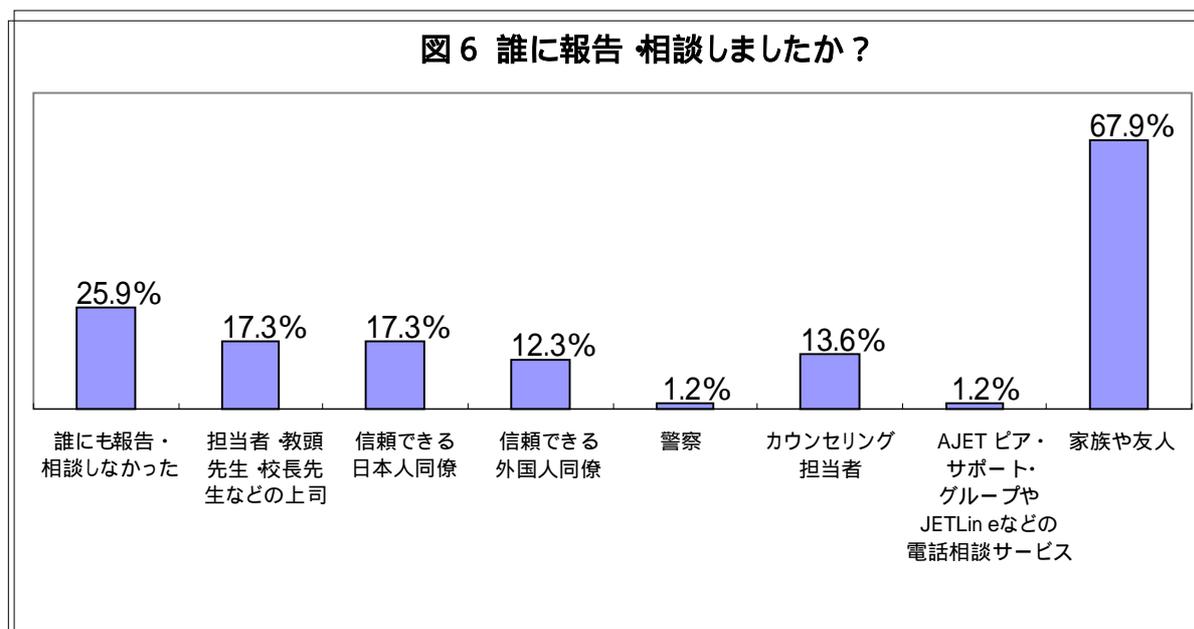
JET プログラムでは、他人の行動を制御することは不可能とはいえ、セクハラに関する研修によってより効果的にセクハラに対応できる能力を JET 参加者に与えることができるであろう。

図 5 からわかるように、回答者の 45.8%は、セクハラを受けた感じた不快感が数時間以内に無くなったと回答したが、ほぼ同パーセント(38.5%)は、その後も何日・何週・何ヶ月も続いた、あるいは今も続いていると回答しており、セクハラがこれらの回答者の仕事と私生活にいかに影響を及ぼしていることを察することができる。



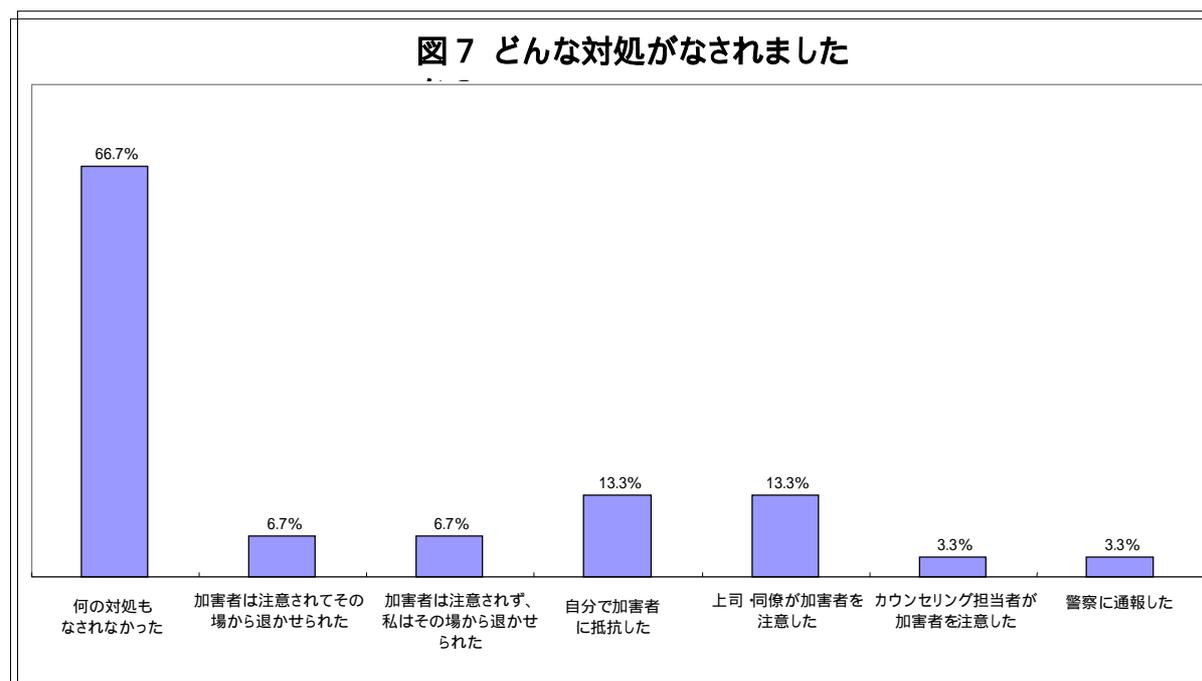
ほとんどの JET 参加者はセクハラへの精神的・実用的な対応方法について研修を受けておらず、日本においての適切な対応方法については十分に理解していないので、セクハラを受けた後、混乱やストレスを覚えることがある。

図 6 では、セクハラを受けた JET 参加者の相談相手に関するデータが表示されている。大半の場合、慰みを求めてか、家族や友人に相談している。しかし、家族や友人は必ずしも JET 参加者が置かれている文化的環境がわからないので、ある程度慰めてあげることができても、セクハラ事件を理解できるようにすることはできない。これは、セクハラを受けて長期間トラウマになる JET 参加者の原因かもしれない。残念ながら、誰にも相談せず一人でこの重荷に耐えている JET 参加者の数が大きい。



四分の三（75.3%）の場合、何の対処もなされなかったという結果は、67.9%の被害者はセクハラ事件を誰にも報告していないか、日本国外に住んでいて日本国内におけるサポートのできない家族や友人にのみ相談していることを反映しているように思われる。

自分がセクハラを受けたことを日本国内の誰かに報告した場合(9.3%)になされた対処に関する結果は図7で表示されている。



意外なことに、セクハラを報告したほとんどの場合においても何の対処が為されないことが判明した。大半の回答者（66.7%）によると、対処が為された場合にも、その後もセクハラが続いた。

性的暴力を受けたり性的関係を強いられたりしたことがあると三人が回答したのにかわらず、警察に通報されたのは一件だけである（実際通報した事件の加害者は結局見つからなかった）。詳しい事情は判明していないが、こういった深刻な事件の三分の二において法的措置は取られなかったことは非常に気がかりである。

当調査の結果、JET 参加者全員がそれを受けたことがあるわけではないとはいえ、セクシャル・ハラスメントは深刻な問題であり、回答者の大部分がそれに対応する能力に欠けていることが判明した。

結論・対策提案

当調査の結果は、JET 参加者と周りの日本人のセクハラに対する認識にずれはあるか、誰がどんな基準によってある行為がセクハラを構成するかどう判断するのか、セクハラと性的暴力の境目はどこにあるのか、法的根拠が無い場合にも自分がセクハラ被害に遭ったと感じることは尤もなのか、と様々な質問につながる。JET 参

加者は、物事に対する自分の解釈と周りの人たちの解釈が必ずしも一致しない環境に生活している。セクハラに関する情報を十分に得ておらず、受けた場合それに対応する力に欠けていると感じる JET 参加者の数が大きい。

JET 参加者はセクハラに対するサポート、特に研修・情報提供の充実を必要としている。これによって、JET 参加者が安全間だけでなく、公務員である自分たちも日本人同僚と同等の扱いを受けているように感じるだろう。これを実現するために、AJET や CLAIR、三省が取れる対策案をここで挙げる。

とりまとめ団体レベルで使える研修のアウトラインの作成

とりまとめ団体が新規 JET オリエンテーションや中間研修に組み込むことのできる、セミナー・分科会等のアウトラインが必要と思われる。（内容例：文化的相違、法律関係の情報、相談できる専門家の連絡先など）

JET 参加者に提供される、セクハラに関する情報の充実

JET 参加者にも、契約団体がセクハラに関してどのように指導されているか理解できるように、「契約団体ようマニュアル」を部分的に英訳する必要があるように思われる。なお、JET 参加者に、これを読んで疑問点などについて担当者・PA と話し合うよう促進するべきである。

職場関係者への啓発

JET 参加者達と共に仕事をする同僚達への啓発を充実すれば、セクハラに関する多くの誤解（特に言葉によるもの）がより多くさけられるように思われる。また、JET 達に、ALT に対する生徒によるセクハラをもっと懲らしめるよう指導することも可能であろう。（後者の措置は ALT と JTE の間により緊密なコミュニケーションを要する）

既存サポート制度のPR

JETLine、CLAIR の掲示板、PSG などの既存サポート制度があるのに関わらず、これらを利用することに抵抗感を抱く JET 参加者がいる。サポートを必要としているこの人達のためにこれらのサービスをより使いやすくする手段を検討しなければならない。これらのサービスを利用しない背景には様々な理由があるように思われるが、その匿名性・安全性をアピールすることによって、サポートを必要としているより多くの JET 参加者に利用するよう仕向けることは可能なのかもしれない。

「JET 参加者用ハンドブック」内のセクハラに関する情報

ハンドブックに掲載されているセクハラに関するエッセーはとても価値のあるものではあるが、情報を更に充実する必要がある。巻末にもそのエッセーがあることを 5.4 章にあえて注意することによって、JET 参加者がそれを見逃すことを防ぐことができるように思われる。ここにおいても、JETLine やピア・サポート・グループ等のサポート・サービスがあることに再度言及することもよかろう。職場において生徒あるいは上司によるセクハラに関する情報はほとんど無いので、これにも言及しなければならない。JET 参加者は、日本において何がセクハラと見なされるか、自分の権利は何なのか、警察とのやりとりは同すればいいのかなどについて説明を求め

Sexual Harassment Report
セクシャル・ハラスメント調査報告書



ていることから、（暴力に至らない）セクハラと性的暴力との区別を把握していないでいる状態が窺える。当調査の結果から、JET 参加者が両方の問題（セクハラと性的暴力）に遭うことはあることが判明しているため、「参加者用ハンドブック」においてこれらを説明すれば解決につながるように思われる。

NAJET からの質問

1. JET 参加者達は、日本におけるセクハラ構成要件及びそれに関する法律日本の法律についての情報を要請している。これらの概略を作成して JET 参加者達に提供することは可能でしょうか。
2. 「契約団体用マニュアル」を英語・その他の言語に訳すことは可能でしょうか。もし可能なのであれば、JET プログラム・PSG・AJET 等のホームページに掲載することは可能でしょうか。翻訳業務については、NAJET は必要に応じて協力する所存です。
3. 新規 JET オリエンテーション・中間研修にセクシャル・ハラスメントに関する内容を組み込むよう CLAIR の方からとりまとめ団体に促進・指導することは可能でしょうか。特に生徒によるセクハラに関しては、担当者・JTE 達も一緒に研修を受けた方が効果的が、双方の異文化理解につながると思われる。
4. 地元の学校の学則・校則には、セクハラに関する情報、又はそれに対する罰則の規定はありますか。
5. 来年度の「参加者用ハンドブック」のセクシャル・ハラスメントに関するセクションと巻末のエッセーに相互参照を付けることは可能でしょうか。また、電話相談サービスなどについての情報を充実・拡張することは可能でしょうか。
6. JETLine や CLAIR の掲示板へセクシャル・ハラスメントについての問い合わせを寄せられることはありますか。その場合、どのように対応しますか。
7. CLAIR 又は三省の方には、セクシャル・ハラスメントに関する研修はありますか。もしあるのであれば、どんな内容のものですか。職場の重要な要素と見なされていますか。

付録

ストーカー行為とセクハラについて（報告書）

ダノラ・ピレー 平成15年度ブロック2代表

平成16年5月の意見交換会において AJET によって発表された

CLAIR の返答（概要）

自分がセクハラを受けたと感じる JET 参加者は担当者と PA に相談するべきである。また、「参加者用ハンドブック」も参照するべきだ。「契約団体用マニュアル」にはセクハラ事件の対応に関する情報が載っている。PA 達もこれに関する研修を受けている。それでもことが足りなければ、CLAIR の PC 達もセクハラに関する研修を受けているので、JETLine に連絡するべきだ。職場におけるセクハラの深刻さに対する意識が徐々に広まっているとはいえ、セクハラは未だに深刻な問題であることは CLAIR が承知している。

NAJET の返答

我々 AJET においては、セクハラは慎重な対応を要する問題であることを承知している。CLAIR から、研修会、ガイドブック、ニュースレターなどの手段によって情報提供の充実を図っていただきたいと思う。これから CLAIR ニュースや PA ニュースレターなどの手段によってその情報提供を図るつもりであると聞いて嬉しく思う。

身体的・性的暴力報告書

平成13年度全国 AJET 役員会

平成14年11月の意見交換会において AJET によって発表された

現存無し

セクシャル・ハラスメントに関する報告書

アロンゾ・スレット 平成12年度ブロック8代表

平成13年11月の意見交換会において AJET によって発表された

岡山県には過去において、セクハラに関するレクチャーやワークショップ等の研修を開催したことがある。これらの研修の目的は職場におけるセクハラ撲滅であり、元 ALT でこの話題について同県で講演した経験のあるアリソン・ロッデン氏によると、「県内 JET の職場は性的緊張が無くとてもゆとりのある環境」だそうである。ロッデン氏によると、自分がインタビューしたほとんどの教職員はこのような研修が強制するべきだと言うことに賛成し、「研修において事例として紹介されるセクハラは自分の職場にも見られるが、多くの職員はそれがセクハラだと言うことに気がつかない上に、どこへ相談すればもわからない」という意見を示した。よって、CLAIR は以下の二つの措置を執るべきである。

1.) JET 参加者の日本人同僚のための、日本語で行われる研修会の開催。内容としては以下の項目が欲しい：

- ・「セクハラ」を明確に定義する
- ・思いやり・気配りを育てるワークショップ等を催す

Sexual Harassment Report
セクシャル・ハラスメント調査報告書



- ・ 同僚に対する適切な振る舞い・行為のガイドラインを設ける
 - ・ 「酒に酔っていたから」は言い訳にならないことを強調する
- 2.) サポート・センターの設立
- ・ カウンセリングの提供
 - ・ セクハラ被害者への秘密相談窓口の提供

性的暴力に関する P S G 資料

作成詳細不明

性的暴力被害後よく見られる精神的症状：フラッシュバック、逃避行為、感情的なしびれ、無気力、自信喪失、自虐的な気持ち、「もしこうすればあんならなかったんじゃないか」というような考え方、不安、恐怖、他人に対する信頼の欠落、身体的不快感

法的罰則

- ・セクハラ：前科のない場合は1万円以下の罰金、前科のある場合は3万円以下の罰金又は半年以下の禁固（愛媛県条例）
- ・暴行：半年以上7年以下の懲役
- ・強姦：最低2年の懲役

日本での警察手続き

- ・被害が通報される時点で捜査が始まる。被害者が怪我をしていてまだ医者に診てもらっていない場合は、女性警官が病院へ同行する。警察付属の医者なので被害者のプライバシーが守られる。
- ・次に、加害者や暴行の事情聴取が行われる。加害者を捕まえるために必要なので、つらいだろうけど協力してください。
- ・こうして被害者は被害届を提出する。被害者のプライバシーに関わるので、告訴するかしないかの決断は被害者に任せられる。
- ・被害届が提出される時点で捜査が始まるわけだが、たとえ犯人が捕まっても、告訴しない限り罰することはできない。被害後の精神的ストレスのせい、被害者が告訴を決意するまで時間がかかることは珍しくない。なお、加害者が知人の場合、被害者が被害届を提出するがすぐに告訴しないこともある。
- ・このため、告訴できる期間に限定はない。
- ・警察は現場で証拠収集等を行う。被害者に居合わせて事件の詳細を説明してもらう。暴行被害時身につけていた衣類や持ち物を証拠品として提出してもらう。
- ・愛媛県警は県内各警察署に女性警官を配備し、性的暴力を伴う事件の捜査に女性警官を付ける制度を導入している。
- ・性犯罪防止を図るべく、夜間パトロールの強化、民間ボランティア団体との連携の強化、ホームページの設立などの措置の計画もある。
- ・電話相談サービス(0120-31-91100) を設立し、警察官による性犯罪防止講座の依頼を受け付けている。

国際交流員報告書

CIR代表 ブライアン・オルソン
会長 セラ・リネカー

はじめに

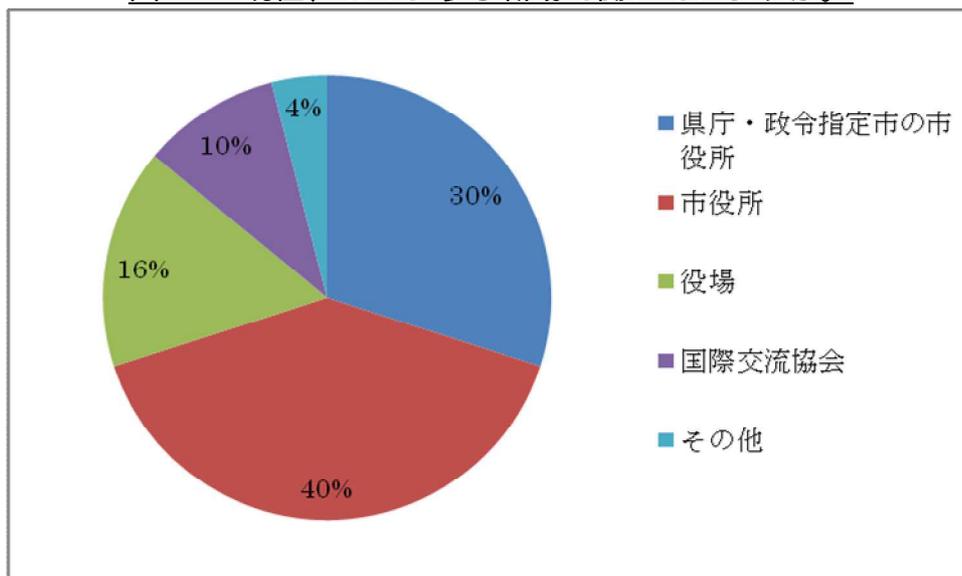
JETプログラム参加者の人数の減少に伴って、近年CIRの人数も減っています。CIR(国際交流員)の人数はALT(外国語指導助手)の人数に比べ、より少ないので、JETプログラム参加者の人数が減ることはCIRに対してとても大きな影響を与えます。その対策として、地域の国際交流、及びJETプログラムを推進するため、CIRがどのような活動をしているかについて、調べています。

このレポートの目的はCIRがどのような活動をしているか、そしてその活動をどのように今後推進していくかを発表することです。このレポートはCLAIR、三省のためだけではなく、各契約団体やJETプログラム参加者が地域でより活躍できるように、情報を紹介するためのものになると考えております。

方法

このレポートで使われている調査データ、そしてその分析は2009年4月に行われた調査に基づいています。回答者は現在JETプログラムに参加しているCIRの50人です。その中で、ほとんどの回答者(88%)は英語圏の人です。その影響でレポートが英語圏のCIR向けの傾向が出てしまいますので、分析は英語圏ではないCIRの状況には不適切かもしれません。

図1 - 現在、どのような職場で働いていますか。



ほとんどの回答者は市役所と県庁・政令指定市の市役所で働いているCIRです(図

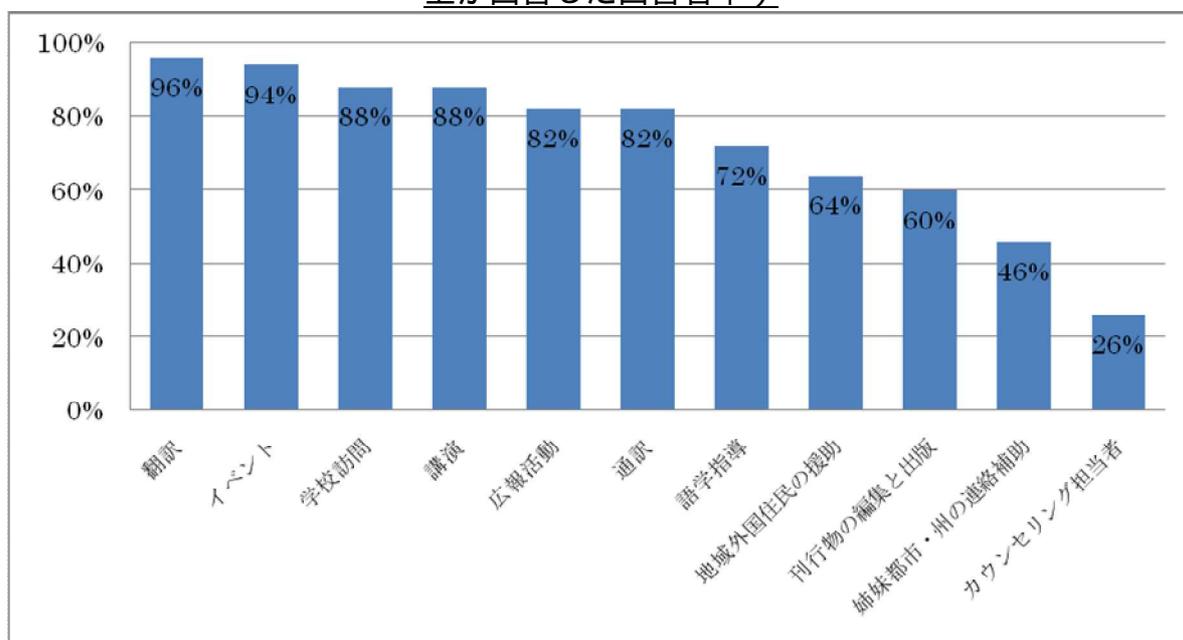
1)。役場と国際交流協会の回答者率は少ないです。一番多くの回答者は 1 年目の CIR(44%), 2 番目は 2 年目の CIR(34%)でした。

JETプログラム参加者用ハンドブック(2008 GIH)の第 3 章「仕事」に書いてある CIR の職務に基づいて、「以下の職務を CIR の仕事としてどのくらい行いますか。」と「自分の職務は地域の国際化を進めることに対して、どのくらい貢献していると思いますか。」という質問について回答をもらいました。調査は 24 問あり、「はい」と「いいえ」の二択、リッカート尺度(1- 5 の回答で、5 は最高で、1 は最低)、リストから選択、自由に書くなどの回答方法を利用しました。さらに、回答者にメールでやりとりをして、詳しい情報をもらうことが出来ました。

CIR 活動

CIR はどのような活動をするかに対して、学校訪問、翻訳、講演、広報活動、通訳、語学指導、イベント、姉妹都市・州の連絡補助、刊行物の編集と出版、地域外国住民の援助、カウンセリング担当者、その他という活動について回答をもらいました。頻度としては全くしない、めったにない、よくする、ほとんどするという選択を選ぶことが出来ました。。

図 2 以下の職務を CIR の仕事としてどのくらい行いますか。(めったにない以上が回答した回答者率)



職場(県庁・政令指定市の市役所、市役所、役場、国際交流協会)に分けると、ある傾向が見えます。各職場の CIR がある活動をよくしているか、していないかという傾向は図 3 に書いてあります。

図 3 - 職務を CIR の仕事としてどのくらい行う傾向・職場別

| | 県庁・政令指定市の市役所 | 市役所 | 役場 | 国際交流協会 |
|---------|--------------|---------------|------|--------------|
| 行う確率が高い | 翻訳 | イベント | 語学指導 | イベント 学校訪問 |
| 行う確率が低い | 学校訪問 イベント | 刊行物の編集 と出版 | 翻訳 | 語学指導 |

地域の国際化を進めることに対して、CIR としての活動はどのくらい貢献していることについて、回答者はほとんどの活動が国際化に貢献しているとやや感じていると回答しました（図 4）。国際化を進めることに対してもっとも貢献している活動はイベントです。2 番目は学校訪問、3 番目は姉妹都市・州の連絡補助です。国際化を進めることに対してもっとも貢献していない活動は翻訳です。通訳、刊行物の編集と出版、カウンセリング担当者も貢献していない活動です。

図 4 自分の職務は地域の国際化を進めることに対して、どのくらい貢献していると思いますか。

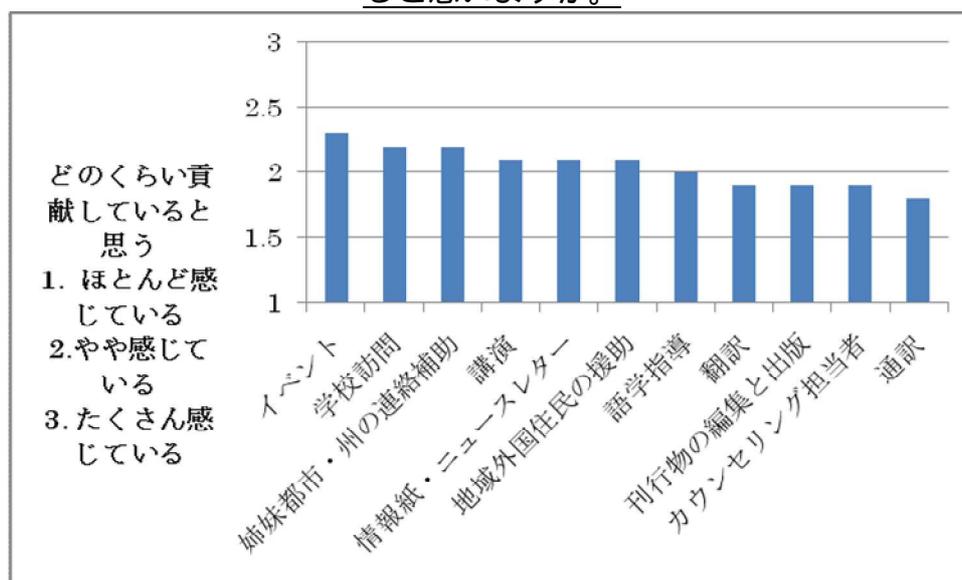


図 3 と図 4 を比べると市役所と国際交流協会に働いている CIR はもっとも貢献していると感じた活動（イベントや学校訪問）をやっていることがわかります。一方、県庁・政令指定市の市役所で働いている CIR はそういう活動を行っていません。むしろ、もっとも貢献ではないと感じた活動（翻訳）を多く行っています。

新しい事務

図 5 - 自分で最初から新しい業務を始める自由はどれくらいありますか。 / 契約団体から新しい業務の許可をもらうことは、どれくらい難しいですか。

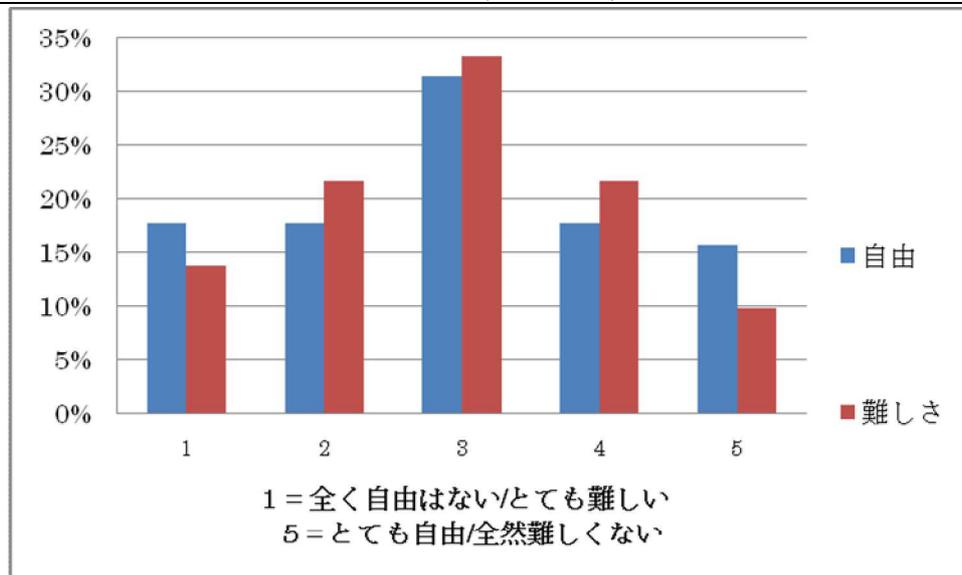


図 5 のデータは正規分布に従っています。新しい事務に対して、契約団体から許可をもらうことと CIR が自由であることは関連がありません。つまり、契約団体により、ケース・バイ・ケースです。しかし、自由・難しくない傾向は CIR が JET プログラムを推進するためには、より望ましいことでしょう。

「新しい業務を始めることに対するの障害について説明してください。」という質問に対して、時間・仕事量、予算、事務の内容、参加者、契約団体から批判、県庁の方法、CIR に対する契約団体の態度、在住外国人に対して言葉の問題、サポートがないなどの回答をもらいました。

上記の障害の中、もっとも述べられたのは予算です（回答者の 34%）。各契約団体は予算が縮減されています。その中、新しい事務を始めることに対するの悪い影響としてゼロ予算の制限が増えたことが容易に考えられます。ある CIR の回答者は

「予算が 0 じゃなければプロジェクトは不可能。」と回答しました。（1 年目、県庁・政令指定市の市役所）

CIR は現在の不景気からも影響を受けています。ある回答者は

「はじめられた事務のすべては予算がないし、自分でやらなければならないことでした。現在の不景気で予算が必要な事務をはじめようとするのは無駄です。」と回答しました。（1 年目、市役所）

時間がない・仕事量が多いという障害は 2 番目に多い回答です（回答者の 29%）。さまざまな事務で CIR は忙しい状況にあります。そういう CIR は新しい事務をはじめるのが困難です。ある CIR は：

「時間は障害です！私は市役所で働いている CIR と違って、翻訳や通訳の仕事がありませんが、学校訪問、毎月の広報、たくさんのイベントなどで時間がありません。」（1年目、役場）

上記に書いてある予算の障害に関連して、「予算の問題で自分の仕事がなくなるという不安がありましたか。」という質問を CIR に聞きました。全般的に回答者は「いいえ」と回答しました（63%）。しかし、役場で働いている CIR の 63% が「はい」と回答しました。

CIR活動に対して、職場・地域の認識

職場または地元の地域では CIR としての活動がどれくらい認識されているかについて CIR が回答しました。全般的に職場と地元の地域は CIR としての活動が認識されていません（図 6 と 7）。

図 6 職場では CIR としての活動がどれくらい認識されていると思いますか。

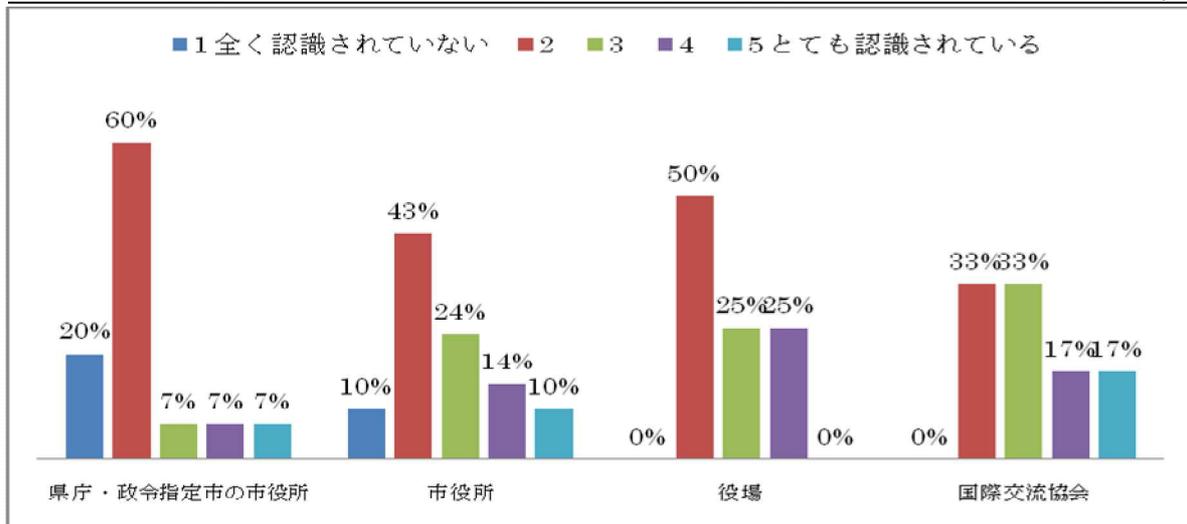
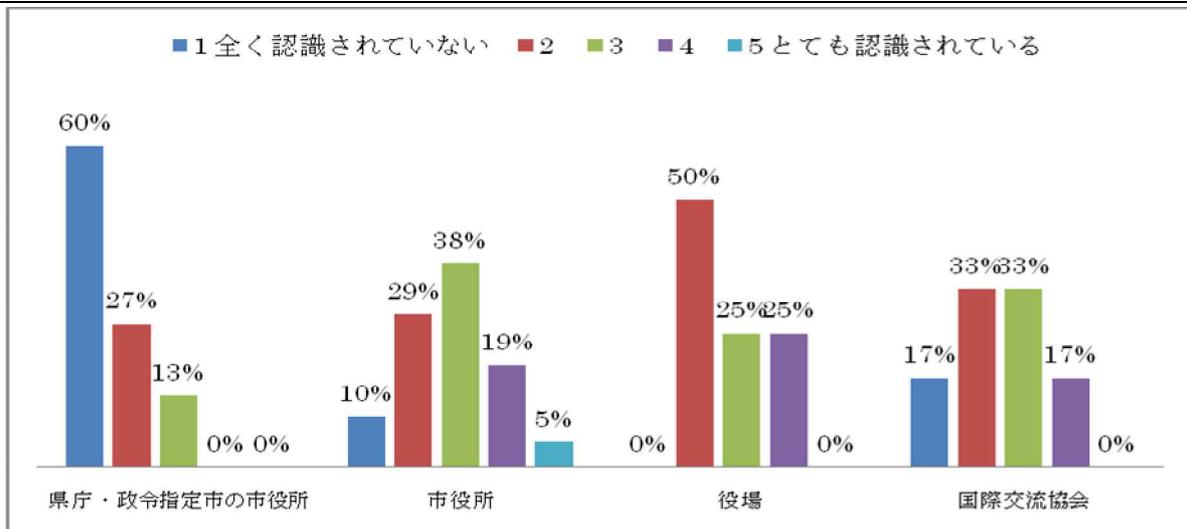


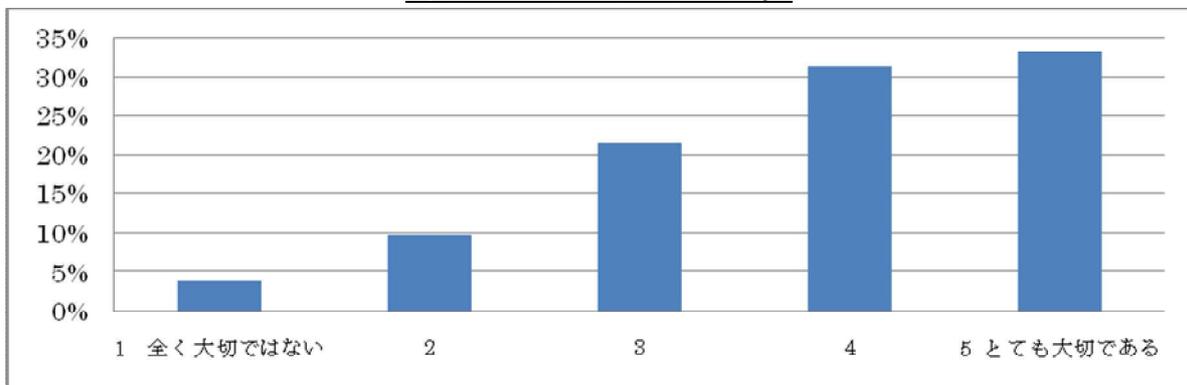
図 7 地元の地域では CIR としての活動がどれくらい認識されていると思いますか。



県庁・政令指定市の市役所で働いている CIRのほうが、他の職場で働いている CIRより、職場と特に地元の地域に CIRとしての活動が認識されていないと回答しました。これは以前述べた国際化を進めることに貢献している活動(図 3、4)をやっていないからかもしれません。国際化の活動と地域の認識は関係があるでしょう。

「地元の地域から CIRとしての活動が認識されていることはどれくらい大切なことだと思いますか。」という質問の回答は図 8が示しています。ほとんどの回答者は地元の地域から CIRとしての活動が認識されていることは大切だと回答しました。しかし、大切だと思われても、地元の地域から認識されていません。これは CIRの活動が地域にうまく広報されていないことを表しているのでしょうか。

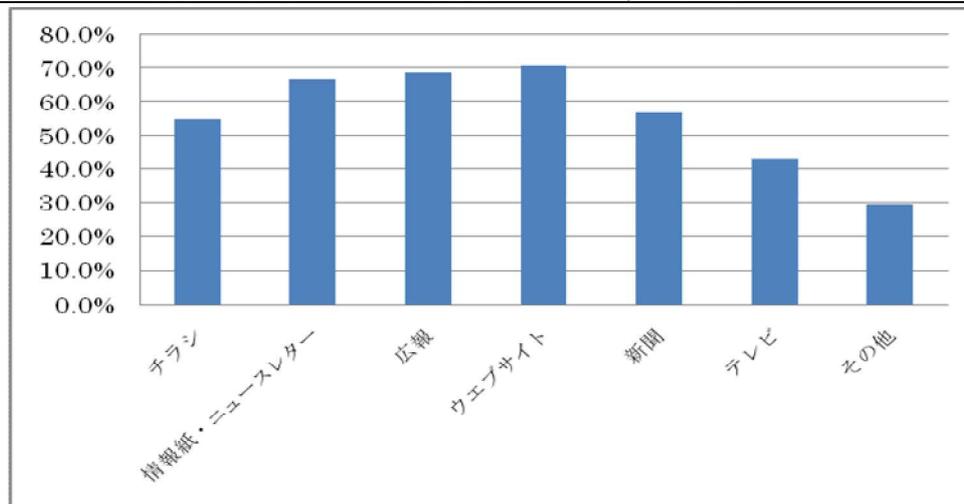
図 8 地元の地域から CIRとしての活動が認識されていることはどれくらい大切なことだと思いますか。



CIR活動の広報

図 9は CIRの活動がどのように広報されているかを示しています。

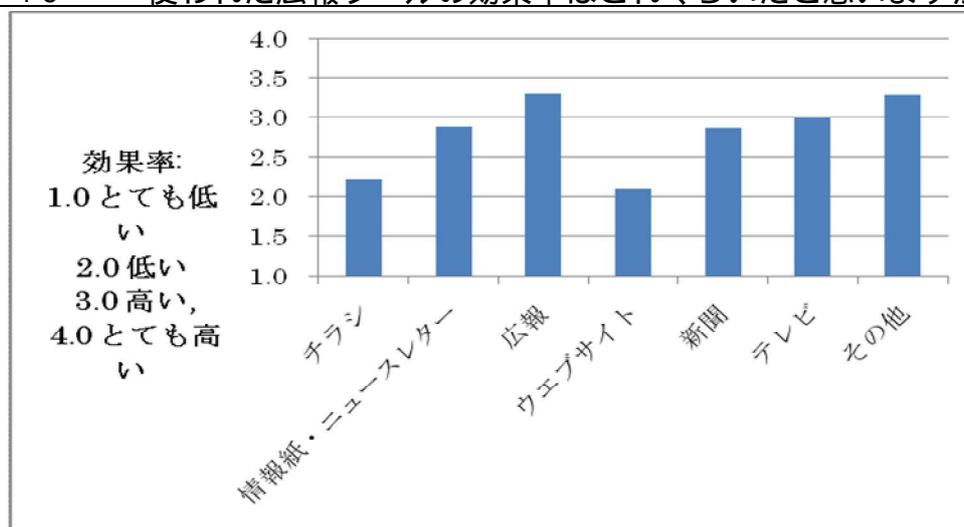
図 9 地元の地域で CIRの活動がどのように広報されていますか。



多くの回答者（65%以上）はウェブサイト、広報と情報紙・ニュースレターを利用しました（図 9）。テレビを利用する回答者はあまりいませんでした。その他の回答は口コミ、メールとラジオなどです。回答者は効果率的に広報が効果率が高いと回答しました（図 10）。しかし、回答者は一番使われたウェブサイトの効果率が低いと回答しています。さらに、効果率が高いテレビと新聞は多く使われていません。テレビや新聞などの活用により、地域での CIR の活動の広報は、もっとうまくできるでしょう。

回答者の 69%は自分のイベントなどがマスコミに報道されました。その中、69%が新聞に、50%がテレビで報道されました。マスコミに報道されることは、CIR の活動や JET プログラムにとって励みとなるでしょう。

図 10 使われた広報ツールの効果率はどれくらいだと思いますか。



結論

全国 AJET は CIR 活動の全てが大切だと認めます。翻訳とカウンセリング担当者の活動は国際化をあまり進まないが、このような活動で契約団体に貢献しています。しかし、CIR と JET プログラムを推進するため、イベントや学校訪問などのような国際化を進める活動を CIR に推奨すべきです。

新しい活動を始めようとする際、契約団体の予算などの事情に考慮しなくてはなりません。予算がないか、少ない活動を CIR に推奨すれば良いでしょう。イベントなどは地域で CIR の活動が認識されるのに良いし、草の根の国際化にも良いです。地域で国際化を推進するだけでなく、職場でも国際化を進める活動を CIR に推奨すべきです。

CIR こそが自分の活動を広報するよう、マスコミを利用できる立場にいます。マスコミは CIR の各イベントと活動を報道する傾向を見せ、CIR がマスコミを利用するように推進すべきです。

第 1 のケーススタディー：「雪の中へ飛び出そう」 イベント

多くの役場で働いている回答者は予算の問題で自分の仕事がなくなるという不安がありました。ドミニック・アボードさんは秋田県小坂町の役場で働いている CIR です。アボードさんが企画した「雪の中へ飛び出そう」という活動はゼロ予算で地域の地域に CIR の職を広報できるイベントの実例です。

アボードさんが「雪の中へ飛び出そう」を企画した目的は町の児童向け雪遊びを通し、近隣の ALT と CIR に親しむことと母国の雪遊びを紹介しあい、国際交流を図ることです。4 人の ALT の協力をもらい、放課後子ども教室の 30 人の児童が参加し、イベントを開催しました。参加者は雪だるまコンテスト、雪玉バスケットボール、雪合戦などのゲームで英語に親しむことが出来ました。

このようなイベントは地域に CIR の活動を広報できる機会になります。アボードさんは「町の児童や住民が『雪の中へ飛び出そう』のようなイベントに参加したら CIR との交際で国際交流が出来ます。それは JET プログラムの目的の一つです。学校以外で開催する活動は『JET プログラム参加者は英語の先生』という考え方を变えることが出来ます。CIR はもっといろいろなことに貢献することができます。国際交流イベントなどで人々がそれに気づくと思います。」とおっしゃいました。

契約団体も CIR も参加者の人数と様子でイベントが成功したと判断しました。アボードさんは「参加者からまた来年を行いますかと聞いていただき、参加者の保護者からお礼の連絡もいただきました。スタッフにも参加者にもとても有意義なイベントだったと思います。」とおっしゃいました。「雪の中へ飛び出そう」は児童や保護者に CIR の活動を広報しただけではなく、秋田テレビのニュースにも出ました。放送が「国際交流員」の言葉をよく使い、アボードさんもインタビューを受けました。

アボードさんは CIR としての各活動と同じく、このイベントが CIR の職を推進していると感じています。アボードさんは「『雪の中へ飛び出そう』の成功はこの町で CIR の必要さを意識させることになると思います。小坂町は小さな町ですが、国際的な雰囲気を持っています。契約団体と町の住民はそれが CIR のイベントや活動のおかげであると感じているのです。」とおっしゃいました。

アボードさんが強調したことはこのイベントの予算がゼロだということです。新しい事務に対して、回答者の一番多い障害は予算がないということです。このイベントはただ一つのゼロ予算で成功した実例です。アボードさんは「たくさんの CIR は予算がないからイベントの企画ができません」と言います。しかし、このイベントと他に私が企画したイベントはそうではないということを示していると思います。ほとんどの場合、目的を達成するために予算は全く必要ではないと思います。」とおっしゃいました。CIR は予算がなくても CIR または JET プログラムの推進ができるのです。

第 2 のケーススタディー : Bonnie' s ミニ国際知識 ニュースレター

職場で CIR としての活動があまり認識されていません。ボニー・マクルーアさんは横須賀市の市役所で働いている CIR です。彼女は職場内のニュースレターを始めとして、職場内での CIR の認識を高めました。このケーススタディーの CIR 活動は予算がなくても CIR の職を推進できる活動です。

1 週間に 1 回の「Bonnie' s ミニ国際知識」というニュースレターは市職員用の掲示板に載せています。約 4000 人の市職員がニュースレターを読めます。ニュースレターに日本語でマクルーアさんが地域について気づいたことや挨拶、外国の文化についての記事、そして英語の慣用句の説明という情報が出ています。以前には、カンボジアの伝統的なことわざ、アメリカの州名の語源説明などを紹介しました。

市職員の読者数は多いようです。マクルーアさんは「別の部署の職員に会うとき、必ずニュースレターの読者がいます。」とおっしゃいました。マクルーアさんはニュースレターが成功したと思っています。自分または課長が市職員からニュースレターに対する多数の好評をもらいました。

ニュースレターの成功で、職場で CIR がもっと認識されるようになりました。「これ以上 CIR を推進できる活動はないでしょう。職場で私が存在していることや CIR として活用ができることを認識している市職員がたくさん増えました。別の部署の職員に会うとき、私の名前を聞いたら「あ！あなたはボニーさん！」と言います。ニュースレターから名前が知られているからです。」

時間がない・仕事量が多いということは新しい事務に対しての障害です。マクルーアさんもその障害があります。「主には翻訳の仕事をしているため、時間が必要です。新しい活動を始めるのは難しいことです。」しかし、この障害があってもニュースレターを始めることが出来ました。

討議の質問

1. CLAIRのほうから JETプログラム推進の活動についての説明をいただけますか。特に CIRの職種に関する推進についての説明をいただけますか？
2. マスコミの利用は CIRの活動や JETプログラムの推進に対し良い方法だと思います。CLAIRは CIRがもっと効果的にマスコミを利用するための研修を提供することは可能でしょうか。
3. CLAIRの意見では JETプログラムを最も効果的に推進することができる JETプログラムの特徴は何だと思いますか。総務省の意見では？これに関し、CLAIRまたは、総務省が CIRの推進に、役に立つ資料や情報などを持っていますか。
4. JETプログラム推進のため、契約団体の協力は不可欠です。しかし、全国 AJETは JETプログラム参加者しか調査できません。CLAIRまたは、総務省が契約団体から CIR活動について、例えば、契約団体にとってどのような活動が大切かなどという意見を求める方法はありますか。
5. 本年、国際交流員ハンドブックが改訂されています。改訂された版にはゼロ予算で地域の国際化を進め、CIRが実施できる活動の実例が含まれていますか。
6. JETプログラムフォーラムは JET参加者が情報などを交換できる場所として非常に良いですが、利用者が少ないようです。全国国際交流員ネットワークも同じようなフォーラムを管理しています。当レポートの結果、全国 AJETは情報や知識を交換できるため、上記のフォーラムを利用するよう、CIRに勧めたいです。CIRが助け合うことができるため、CLAIRもフォーラムを推奨することは可能でしょうか。

付録

Bonnie's ミニ国際知識 Vol. 15

ボニーは日曜日、たけのこ BBQ に参加しました！
たけのこ天ぷら、たけのこみそ焼き、タンポポ・三つ葉・雪ノ下天ぷらなど、
新鮮なものをいっぱい食べて、大変美味しかった。

ボニーは自然界のなかで育ったから、今の街中生活をしている間に心が半分寝ているけど、
山中の竹林に行ったらその寝ている半分か起きられました。
生きていることをとても感じた一日でした。

今週の国際文化ファクト

日本の国際ランキング

色々な面白い国際ランキングがありますが、今日はその中から大きな6つを説明します。

1) 国際連合の人間開発指数(United Nations Human Development Index) は、国の富・健康・教育の発展レベルを測ります。2007-2008 のランキングで、日本は180カ国の8位でした。上位3カ国は上からアイスランド・ノルウェー・カナダで、下位3カ国は下したからシエラレオネ・中央アフリカ共和国・コンゴ民主共和国です。

2) 世界経済フォーラムの世界競争力報告 (World Economic Forum Global Competitiveness Index) は、国が国民に富をもたらす能力を測ります。日本は2008-2009 のランキングで134カ国の9位でした。上位3カ国は上から米国・スイス・デンマークで、下位3カ国は下したからチャド・ジンバブエ・ブルンジです。

3) 世界経済フォーラムの世界男女格差報告 (World Economic Forum Gender Gap Index) は、男性に比べて女性の健康・教育・経済権限・政治的権限を測ります。2008 のランキングで、日本は130カ国の98位でした。上位3カ国は上からノルウェー・フィンランド・スウェーデンで、下位3カ国は下したからイエメン・チャド・サウジアラビアです。日本のランキングが先進国だけではなく、世界中でも低いのは、日本の女性の健康・教育のレベルが高いのに、政治的権限・経済権限が非常に低いからです。(女性の平均収入は全体的に男性の平均収入の45%で、類似業務の場合は59%です。)

4) ウォールストリート・ジャーナル / ヘリテージ財団 (Wall Street Journal / Heritage Foundation Index of Economic Freedom) は、ビジネス・財産・投資・労働などの自由を測ります。日本は179カ国の19位です。上位3カ国は上から香港・シンガポール・オーストラリアで、下位3カ国は下したから北朝鮮・ジンバブエ・キューバです。

5) トランスペアレンシー・インターナショナルの腐敗認識指数 (Transparency International Corruption Perceptions Index)は、公務員・政治家がどの程度腐敗していると認識されるかの指数です。2008 のランキングで、日本は180カ国の18位でした。上位3カ国は上からデンマーク・ニュージーランド・スウェーデンで、下位3カ国は下したからソマリア・ミャンマー・イラクです。

6) 国境なき記者団報道の自由ランキング (Reporters without Borders Worldwide Press Freedom Index) の 2008 ランキングでは、日本は173カ国の29位でした。上位3カ国は上からアイスランド・ルクセンブルグ・ノルウェーで、下位3カ国は下したからエリトリア・北朝鮮・トルクメニスタンです。日本のランキングが先進国にしては高くないのは、記者クラブのシステムのせいでニュースの自由報道が妨害されているからです。しかし、右翼団体からのメディアに対する激しい攻撃が最近減ったということで、2007年の42位から上がりました。

今週の英語慣用句

1) “early bird” 「早朝の鳥」

意味：早起きの人

例：“He’s an early bird; he gets up at 5:00 a.m. to go jogging.” 「彼は早起きの人で、午前5時に起きてジョギングに行っている。」

2) “night owl” 「夜間のふくろ」

意味：夜型の人

例：“I’m both a procrastinator and a night owl, so I do my best studying at 3:00 a.m. the same day as the test.” 「私はぐずの常習犯の上に夜型だから、テストの当日午前3時の勉強が一番効きます。」